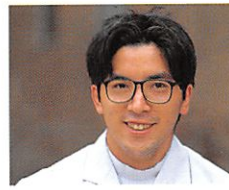


ZOOM UP



1996.No.93



博多湾にほど近い地下鉄・箱崎線の貝塚駅から馬出九大前のほぼ4駅に亘り、広大な敷地を有し建つ九州大学。本部のあるキャンパス内も広い道路が縦横に走り、ゆったりとした雰囲気。訪れる度に感ずるが、南と北、植木も松やソテツ、ニレやポプラ等の違いはあるが、どこか北の名門、北海道大学に似ているな、と思う。

本部がある事務局は赤レンガの2階建。外・内装は塗り変えられているが、高い天井、ガッシリとした石造り、伝統校らしい風格を見せている。

「やあ、いらっしゃい。どうぞこちらへ」と通された総長室。広々としてシックな室内インテリアは、長身でダンディな総長にピッタリと似合っている。

座られると同時に、こちらの訪問意図を察しられて「私は昔から歯が悪かったから、歯医者さんにはずっとお世話になりました。先年、友人の教授がアメリカで教わったと言ってハブラシの仕方を教えてくださいましたが、その時

はずで遅く、もっと早く知っておくべきだったと後悔しました(笑)。「でも歯科治療に行くたびに思うのですが、口腔内に埋めたり、削ったりするものの消毒があれで大丈夫か、感染はしないのだろうか、という不安を覚えますね。私の専門が整形外科で、術中の細菌感染にかなり神経質、敏感になっているものですからそう感ずるのかも知れませんが」と正直な患者側からみた感想を。確かに昨今は院内感染について各医院とも対策を施しているが、以前は唾液による自浄作用に頼っていた部分も多い。「でも今の医院の中では、歯科医院が設備やインテリア、スタッフの言動など、最も良いのではないのでしょうか」とうれしいご感想も。

——最近の大学カリキュラムの改革について「総てがグローバル化されている時代の中にあつて、大学教育・制度も見直しをされるのが当然で、本学も大学院重点化大学としての改革を行っている最中。卒前教育を十分行いかつ大学院を重点化する方向です。各部署も専門分野でどんどん細分化されて来ておりますが、卒前の基礎教育はある程度フレキシブルにし、学部によっては将来の選択の巾を持たせ上級で分野別に専門化を図る方向を考慮中です」。

お生まれは神奈川県・横須賀市。海軍々医だったお父様の転属に伴い小・中学、合わせて9年間に6回転校されたと言われる。「今イジメ問題が表面化しておりますが、昔もありましたよ(笑)。私もよくイジメられました、一番の原因は言葉でした。でもその度に意地が強くなりましたし、各地を回ったせいか、今はどんな人と会っても全く苦になりません」と愉快そうに笑われる。

堂々たる体軀。若い時は何かスポーツを? 「運動は総て好きです。背が高かったから主にバレーボールをやっておりました。当大医学部時代は、今では考えられませんが、実業団と練習をしたり試合をしました」。

——整形外科に進まれたのは? 「外科は身体の疾患部を切り取る治療法が主ですが、整形外科は疾病や外傷で失われた機能の再建に力をそそぐことから興味が湧き、この分野に進みました。インターン前は基礎医学を、と思っておりましたが、患者さんの診療にたずさわっている内に臨床医学にひかれました。今年3月まで教授を兼任することになってはいますが…。総長になる前は長年患者さんから教わり勉強したことをもって還元したいと思っていたので…。医者は患者さんと接していないと淋しいものです。あと3~4年はやっていたかったな—とっているんです」。

——大先輩として、今の医療について感じられていることは? 「今は医療機器が発達して、特に画像診断が格段の進歩をいたしました。

が、触診することによって、その症状が画像が示す以外の疾患から来ていることがわかるケースが多々あるのです。十分に病歴をとり身体全体をよく診察すること。若い人が画像に頼りすぎ基本の診察がおろそかになって来ているのは心配だし残念です」。病気とは読んで字のごとく、気持ちや心、精神によってもかなり左右される場合も多い。医師が触れてくれるだけで、気持ちが安まった経験は誰でもお持ちであろう。参考になるお話である。

——医療制度については「国民サイドから見れば、日本ほど医療制度に恵まれている国はありません。日本はどこに行っても病院はありますし、費用もほとんど保険でカバー出来ます。又日本の病院長の多くは医者ですから、人間愛というのがありますが、アメリカなどでは、病院長は経営者、即ち資本提供者が多いので、経営にプラスになる診療方法を選択しがちで、保険のない人は、手術は研修中の人が行い専門医は直接手を下ささないなど、悪く言うと実験台。よくアメリカの医学教育者が、医学生が卒業前に手術など経験しないなんて、と驚きますが、日本で国家試験を通らない前にそんなことをしたら大変です。又、私の専門である股関節外科での人工股関節など、日本では耐用年限に限度があることから例外をのぞけば65才以上と適応を決めておりますが、アメリカでは一疾病定額医療の関係で短期間に退院出来ることから、若い人にも使ってしまいます。が、人工関節のゆりみを生じた時は骨も破壊され、再置換術は大変になります。どんな層の人々も平等に治療が受けられる日本。よく検査漬け、薬漬けと批判されますが、医療の平等性からみれば日本ほど恵まれている国はないと思います」と長年の経験、国際人としての目で熱心に話される。

——現代の、しかも難関を突破した当大学の学生をご覧になって「現代の学生、特に国立や私立名門校に入った学生は優秀な子と世間では評価しますが、入試方法でもおわかりのように、それは小さい時から受験技術というか、教えられたことを正確に覚え、それを間違いなく書き表すことの得意な子が入学出来る制度なのです。が、それは科学者にとっては必ずしも満点ではありません。私は学生によく言いますが、過去にあった総てを金科玉条として鵜呑みにするな。科学では常識と思われたことが非常識となり、非常識と思われたことが常識となる。自分で見・考え工夫する習慣を養いなさいと。大学に入学したこと。そこからが人生の始まり、スタートであることを自覚して欲しいですね」。

秘書の方の「お時間です」という声を聞くまで…。あつという間に過ぎた1時間。

日本を代表する名門校にふさわしい、魅力溢れる総長である。



九州大学総長

杉岡 洋一

● 略歴

- 昭和7年11月 神奈川県横須賀市に生まれる
- 昭和33年3月 九州大学医学部卒業
- 昭和38年4月 九州大学医学部附属病院副手
- 昭和39年4月 九州大学医学部助手
- 昭和47年1月 九州大学医学部附属病院助手
- 昭和47年11月 九州大学医学部附属病院講師
- 昭和52年8月 九州大学医学部助教授
- 昭和58年8月 九州大学医学部教授(整形外科科学講座)
- 平成4年4月 九州大学評議員
- 平成5年1月 九州大学医学部長
- 平成7年11月 九州大学総長、九州大学医療技術短期大学部学長

私と東京医科歯科大学

歯学部長 中村嘉男



■プロフィール

- 昭和33年 東京大学医学部医学科卒業
- 昭和34年 実地修練(東京大学医学部付属病院)
- 昭和38年 東京大学大学院生物系研究科第一基礎医学専攻課程修了
- 昭和38年 東京大学助手 医学付属脳研究施設神経生理学部門
- 昭和46年 東京大学講師 医学付属脳研究施設神経生理学部門
- 昭和47年 東京医科歯科大学教授 歯学部付属顎口腔総合研究施設咀嚼研究部門
- 昭和57年 東京医科歯科大学教授 歯学部口腔生理学講座
- 昭和61年 東京医科歯科大学学生部長
- 平成6年 東京医科歯科大学歯学部長

昭和3年、東京高等歯科医学校として設立された国立の名門東京医科歯科大学。通された学部長室には初代の歯学部長であられた檜垣麟三先生から先代小椋秀亮先生まで、さすがはと思わせる全国にその名を知られた歯科医学界のリーダーの方々の写真が並んでいる。ご紹介の中村歯学部長は一昨年4月ご就任。数えて9代目である。

—ご就任にあたって、現代の歯科医療の在り方、又常々学生に話されることは?「ご存知のように歯科医学は人間の身体と精神をも含めた自然科学の範疇に入ります。従って歯科も歯だけを診るのではなく、歯が存在している環境としての口腔領域全体に目を向けなければなりません。また、口腔領域は全身の一部ですから、全身との相互作用を注意して治療にあたらねばなりません。生物学的存在としてのヒトの治療としてはこれで十分ですが、現実のヒトの治療としてはこれだけでは不十分です。というのは、現実のヒトは個々に社会生活を営んでいる社会的存在だからです。矯正にしても義歯を入れるにしても、その人の環境や経済的な条件を考慮して、患者にとっての眞のニーズに応える治療をする必要があるわけです。患者の社会的条件と心情を深く理解できる歯科医師の養成にとって、生物学としての歯科医学の教育に加えて、人文・社会科学が今後は大切な教育科目であると考えます」。「本学でも新カリキュラムの改訂を平成6年度の入学生から実施しておりますが、その中に『人間科学教育系科目』という新科目を導入しました。入学後2年目の学生に、夏休みなどを利用して、全員老人ホームや障害者施設等、個々の人間の社会・生活背景を体験を通して理解してもらうことが狙いです。専門教育から得られる知識だけではなく、歯科医師としての倫理観や患者との適切な意思疎通を図る能力など、広い意味での人間的成熟を学ぶことが大切と考えるからです。その他、「歯学概説」という科目で、豊富な経験を持つ病院院長や、哲学者、新聞記者などの方に講演を依頼し、学外体験実習と共に、今後国民が必要とする歯科医師とはどういうものか、自分達に寄せられている社会的期待と責任を学生達に自覚させて、歯科医学の勉学へのバネとしてもらいたいからです」。

写真でもおわかりのように今年62才と言わ

れるが、よく通る声、爽やかな印象、とてもそのお年には見えない若々しさ。その印象に甘えて…。——でもこちらは国立。私立のような切実な問題は抱えていないと思われませんか？「いえ、いえ。確かに経営という面では私立と較べあまり心配はないと思いますが、病院は収入の多寡を常に比較・管理されておりますから、病院長は大変苦勞なさっていらっしゃいます」。「先代の学長によく言われました『ソビエト社会主義共和国連邦という世界の超大国と言えどもつぶれる世の中。たとえ国立であっても、魅力的な大学を作らなければ、学生も来ないし、つぶれても仕方がない』と。国立といえども安穩としているわけにはまいりません」。

——しかし、学生側から見れば増え続ける科目数を限られた期間内にそれだけ学ぶことが出来ますか？「確かに全身医学を学び、歯科医学の知識はむろん歯科医療技術も修得し、その上人間性の陶冶ということになりますから、私が見ている学生さん達はよくやっているといます。医学部は以前から卒直後臨床研修が努力規定として実施されており、卒業生のおよそ80%が病院等で研修医として研修しておりましたが、歯学部は6年間で完成教育をするということで、卒業までに独立出来るだけの力を身につけることを目標として来ました。しかし高齢化社会や先程言いましたように社会環境をも考えた人間科学の勉強等、技術実習を含めると医学部より学ばなければならない科目が多いのが実情。教える我々が消化不良になってしまうのではないかと心配するほどになってしまいました」と正直に心の内を。

お生まれ育ちとも東京。略歴が示すように東大医学部を卒業後、昭和47年当校に。ご専門は口腔生理学。「大学院を修了後、神経生理学、特に三叉神経に興味があったことから、昭和40年から3年間UCLA脳研究所で、顎を動かす咀嚼筋を収縮させる運動神経細胞の活動を、脳がどのようにコントロールしているかを研究しました。アメリカから戻り、本学部の顎口腔総合研究施設内に、新たに咀嚼研究部門が開設された機会に、咀嚼をコントロールする脳のメカニズムや、咀嚼が脳に与える影響のメカニズムを研究するために、本学部へ来ました」。もともと私は人づき合いが下手ですので、自分のペースで行ける研究者の方が臨床医よりいいと思って、基礎医



学での研究の道を選びました、と言われるが、理路整然、明るい口調。とても下手とは思えないが!？。

——長年のアメリカ生活。日本の大学と比較して…。「私のUCLAでの生活は通算5年ほどになりますが、一番の違いとして感じるのは高等教育の在り方ですね。たとえば、日本では医科歯科卒業とか、アメリカではハーバード卒業とか言えば、社会的に高く評価されますが、実は大きな違いがあるのです。日本では大学の入学者選抜は大変難しいですが、入学してしまえば原則として全員卒業します。ですから日本で一流大学の卒業生の評価が高いのは、一流大学に入学したということの評価で、大学でどういう風に勉強し

たかは問題にされません。しかし、ハーバード卒業というのは、ハーバードに入学したことが評価されるのではなく、ハーバードでのハードなトレーニングに耐えて卒業したことで評価されるのです」と日米の大学教育の違いを。「本学部の定員は75名ですが、その内何人かは目標を持たず、偏差値だけで入学してくる学生がおります。でも本学は総合大学では有りませんから、途中で自分の適性が歯科医学とは別の分野に向いていることに気づいても他の学部に移ることが出来ません。退学しか道がないのです。その点は気の毒ですね」。確かに言われる通り、医師は身体への健康回復への奉仕はもとより人間が生きていくための精神的な支えをも担う職業。点数最上主義で育てられた子供が、入学後、現代の社会風潮の世の中にあつて、仁術より算術を、と揺れ動いても不思議ではない、と思われる。

——現代の若者、学生をご覧になっていかがですか？「私は昭和27年に大学に入りましたが、今思うとあの頃は戦国時代だったんですね。先輩から、3年先など考えるな、1年先がどうなっているかわからないんだから、と言われました。今は平和な時代が続く、管理社会が定着しておりますから、自分の一生が決められてしまうと言うか、先き行きが分かってしまうんですね。学生を見ている、言えばその通りにやりますが、自発的にはやろうとしない。私達の頃は自分のしている研究が面白くてたまらない、といった学生が多かったが…。今は詰め込み教育の結果でしょうか。もう少し覇気が欲しいと思いますね」。当大学設立の基本理念である“科学的知識に裏打ちされた歯科医師の養成”に加えて、今後は自学自習の精神と態度を身に付けた歯科医師の養成をさらに充実させて行かねばなりません、と言われる。

政治、経済、文化。歯科医療界も決して例外ではなく、我々を取りまく社会環境が今大きく変わろうとしている。戦後の教育の在り方の歪みを修正し、時代の変化に合わせて推進させる教育。中村歯学部長が言われる、「個々の人間が抱える社会的条件を、知識のみの枠の中でとらえることなく、患者の生活背景の中で共に考え診療していく柔軟な頭を持つ歯科医師の養成を」との話がよくわかる。

日本を代表する名門校。その頂点に立つ学部長に寄せる期待は益々大きい。



社団法人

富山県歯科医師会

北に富山湾、東に冠雪の立山連峰。富山県の行政・文化を司る中心富山市は、日本の屋根といわれる北アルプスから立山に連なる山々が急峻に日本海に落ちる麓から裾野にかけて発展した人口約32万余りの町。昔は越中富山の葉売りとして、全国の家庭に常備薬を行商して歩く北陸の人々として知られていた地。読者の先生方の中にも幼い日、葉と共にフーセンなどを貰えることから、来る日を待ち望んでいた思い出を持つ人も多数いることであろう。

県歯科医師会館は駅から西に向かって車でおよそ5～6分。富山大学に隣接した角地に、県下の総合歯科医療を一手に担う殿堂らしい風格を見せて建っていた。

又、渡り廊下で結んだ隣には一昨年3月竣工成った3階建の歯科保健医療総合センターがモダンで明るい近代諸設備を整え建っている。

木曜日夜7時半から始まった定例役員会議。毎度のことながら、診療を終わった先生方が一服の暇もなく、県下各地からこの会議のためにかけつけるその熱意には頭が下がる思いだ。

又、会館事務局の方々も、その会議のために居残り、スムーズな会議の流れを補佐しておられる姿も加筆しておきたい。

会議に先立ち会長室で、藤井会長、今村、坊、栗山、三副会長と宮田専務理事の、5人の役員の方から県歯会の活動状況や将来への展望、又県民の実情などを語って頂いた。

尚、藤井会長は昭和23年、新制なった県歯会から数えて10代目。会長職としては15年続けられていると言われるから、ご存知の方も多いことであろうし、又、会員の信頼もそれだけ厚い証とも言えるであろう。

Officers of
TOYAMA
Dental Association

- 会 長／藤井 弘
- 副 会 長／今村 勝彦
- 副 会 長／坊 明男
- 副 会 長／栗山 豊実
- 専務理事／宮田 靖雄
- 理 事／桜木 正昭
- 理 事／北山善之進
- 理 事／山崎 宣夫
- 理 事／松木 基祐
- 理 事／釣谷 東民
- 理 事／熊木 彰
- 理 事／安田 篤
- 理 事／山崎 安仁
- 理 事／山田 真樹
- 理 事／平井 和輝
- 理 事／高島 隆
- 理 事／篠原 昭道
- 理 事／山本 武夫
- 理 事／中道 勇
- 理 事／山岸 敏治
- 理 事／平木 光昭
- 理 事／焼田志図夫
- 理 事／福島 武人
- 理 事／高石 叡
- 監 事／上田 昌
- 監 事／奥川 澄夫



会長

藤井 弘



会長：現在県民人口およそ113万人を会員468名、診療所数403院でカバーしておりますが、やはり他県同様、年々開業数も増え、市街地はかなり過密になって来ております。ただ私の考え方は、開業は自由、夜間診療も各院が住民の要望に応じての経営努力の表れでもあるわけですから、時に周囲の先生方から不満の声も聞かれますが、それを規制する気持ちはありません。又、昔は学閥など、卒業した大学同士でかたまる傾向も多々見受けられましたが、今は全くありません。業界も年々厳しくなって来ておりますが、私は同じ業界に身を置く者同志、お互いの立場に立って励ましたり、教え合ったり、仲良くすることが最も大切だと思っております。幸い、私の意図を会員が理解下さり、過去、問題になるようなトラブルは1件もなく、その点は有り難く思っております。現状の活動は、県下を4つのブロックに分け、在宅当番歯科診療はむろんですが、当館に隣接した医療総合センターで、ライフステージに応じた総合的な歯科保健対策、心身障害児(者)や休日・夜間の歯科診療等の特殊歯科診療を行っております。それ等に当先生方も大変ですが、皆さん努力を惜みず治療に全力で協力下さり、感謝しております。

副会長

坊 明男



坊：私は当館にある歯科総合学院と総合センターの総括を主にやっております。ただこうした活動は県全体の各種の団体が共に連携し合ってこそ、県民の歯の健康向上につながって行くものと考えますし、それが又、日歯が提唱する8020運動の推進にもつながって行くのではないかと思います。今年がその初年度ですが、行政の方々にも協力を要請し、人間のライフステージを、胎児から小・中学生、成

人、高齢者、障害者の4つに分け、個々に計画書を作り“健康日本一”のキャッチフレーズのもと、推進して行きたいと考えております。県民総ぐるみの歯科保健、健康づくりですから、やりがいがありますよ(笑)。

副会長

今村 勝彦



今村：私は保険、医療管理、税務を主に担当しております。保険診療は、当県は全国でも平均点が高い県の一つとして知られておりますが、それは逆からみれば自由診療が少ない県でもあるわけです。そうした中であって、保険指導も懇切丁寧、わかりやすく、又税務署とのコンタクトもキチットするよう指導しております。会長が就任時に掲げた3つの提案。1. 正しい保険請求の実行。2. 節税はあっても税金はキチット納めること。3. 雇用関係にも正しい評価をし、それに見合った報酬等、経営者として恥ずかしくない姿勢



を示すこと。こうしたことが徹底されているためか、税務調査件数もかなり少なく特に昨年は、優良納税者として3診療所が各税務署より表彰を受けられ、その点は誇りに思っております。質素を旨とし、持ち家日本一。日本で一番住みやすい県と言われております(笑)。

栗山：私は学術と福祉共済、調査を担当しております。学術方面は県歯会としましては先生方のニーズに応えその時代に合った内容を選び外部からの講師にお願いしております。が、近年は学会数も多く、又各個にスタディグループ等を作り勉強されておりますから、決める演題も

副会長

栗山 豊実



難しくなって来ました。昨年は愛知学院大学の法歯学の教授に講演を依頼し、名古屋で起こった中華航空事故を題目にお話し頂きましたが、演題に興味があったからか、多数出席され好評でした。

福祉共済につきましては、巾広くカバーしておりますが、中でも家族ぐるみで催す年1回のレクレーションや忘年会等、会員の方々には好評のようです。当会は学術団体ですが、一方親睦団体でもあるわけですから、お互いが仲良く懇親出来る場を提供することも大切かと思っております。

専務理事

宮田 靖雄



宮田：現在県歯会には15の部会があり、それぞれの担当理事のもと、活動を行っておりますが、会員の皆さんが部会活動及び各種の会合に出来るだけ多く出席し、コミュニケーションを図ることが、会長の主旨である「仲良く共に向上する」ことにつながっていく、と考えます。先程の話にもありましたように、当県は質素を旨とする県民性(笑)。それだけに会員の方々も真面目で、トラブルも非常に少ない県でして、その点は役員としても恵まれている、と思っております。

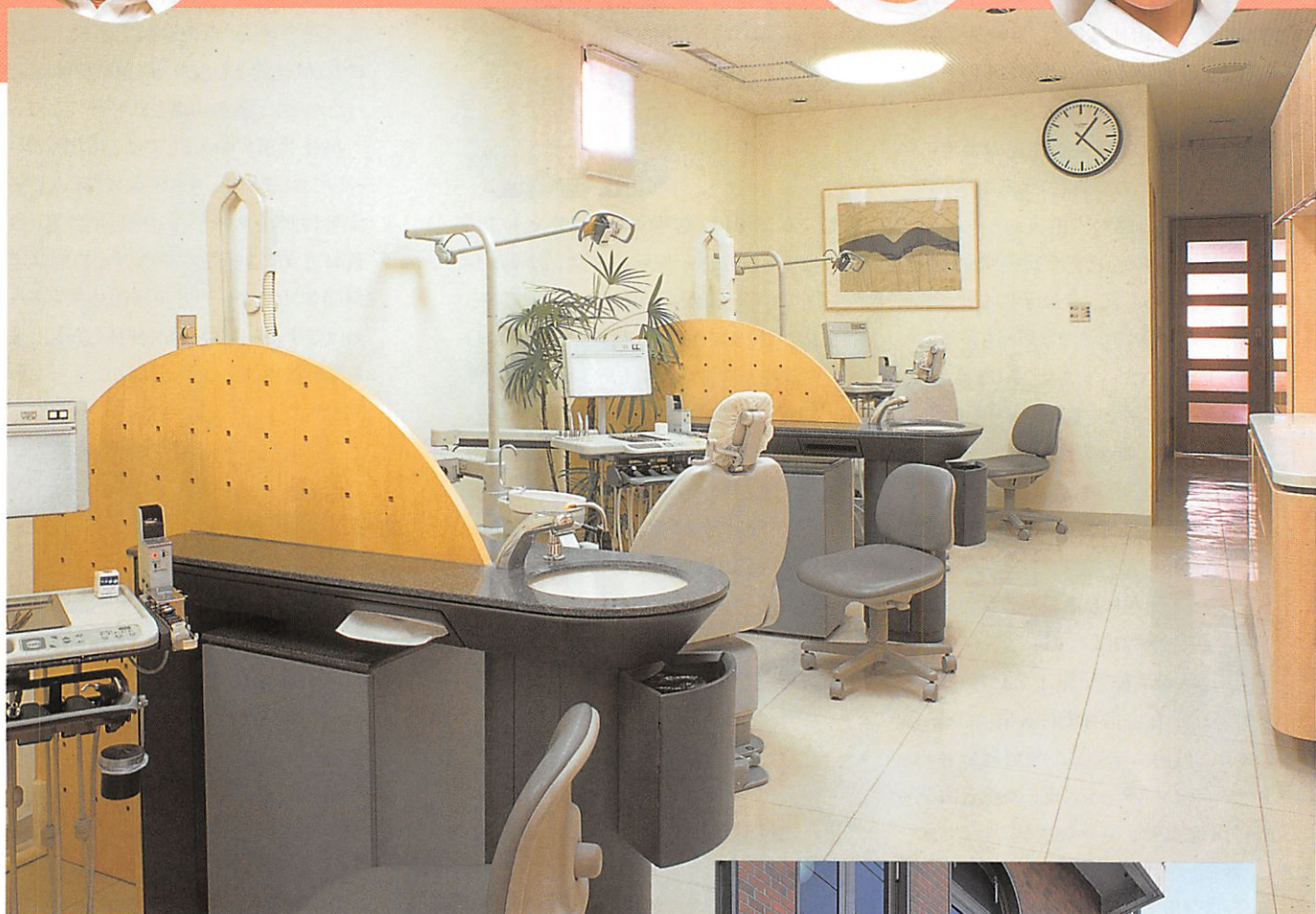
Q：会長、最後に将来の展望を。

会長：高齢化社会を迎え、医療制度が各方面で行き詰まっている感がありますが、大切なのは人の命。健康を守り、命を存えるためにはお金ではありません。医療を施す人が無駄のない、正しい医療行為をするのは当然ですが、必要不可欠なことまで枠外として外してしまうことは問題です。当界も年々厳しくなり、会員の方々も大変でしょうが、県民の健康を守るのが私達の使命をモットーに進めば、必ず県民の良きコンセンサスが得られ、明るい将来が開けるものと信じております。

上田歯科医院

鳥取市西町1-454

院長 上田 務
副院長 上田拓郎
歯科医師 上田美和 (旧姓・中田)





池田藩32万石の城下町として栄えた鳥取市。市の中心部はアーケードが作られ、華やかな街並みに変わっているが、東に久松山、西には千代川の間にあって、どこかゆったり。落ち着いた雰囲気を感じさせる町である。

ご紹介の「上田歯科医院」は、その町の中でも一等地。県・市の文化・行政を司る官庁街と鳥取城跡に面した国道29号線に沿って建てられている。

建物は茶の外壁に白の縁どりがされた4階建。飾りのついた鉄製の外窓に花を置いた外観はヨーロッパ郊外の建物を思わす、エキゾチックな作りだ。

各段に花が置かれた階段を15~16段昇って医院の玄関へ。木目の床を上がった右手に洗口コーナーと手洗い。そこから3段ほど昇ったところが待合室という凝った作り。マス目状に木枠を組んだ衝立て横の窓から壁に沿って座り心地の良さそうなアイボリーの椅子がL形に並んでいる。

受付は前面が黒、台は木目の縁どりがされた白のオープンカウンター。くもりガラスが入った木のドアを押し診察室へ。

室内の床は、一辺が約40cmほどはあるかと思われる、やや大きい目の正方形の白いビニタイル。壁に向かってグレーのスマイリー<ノーベル>L型が3台並ぶ。各台のパーティションは、上部が半円を描く木製、下部が簡易手洗いがついた濃グレーのキャビネットという、これ又スマートで凝った仕上げである。ユニット背面に木目状の模様が入ったサーモンピンク色の大型キャビネットを設置。そ

の裏側が消毒コーナー、それに続いてくノーベル>L型が更に1台置かれている。おそらく、公用で多忙と、そろそろ次代にバトンタッチしようと思われている院長の専用ユニット(?)かと思われる。

総てがスマートで明るい、見事な演出・設計である。

院長は昭和28年、大阪歯科大学をご卒業。卒後は山口医科大学歯科口腔外科学講座講師、地元鳥取赤十字病院歯科口腔外科部長として8年間奉仕され、その間、昭和34年に学位を取得。昭和36年、生まれ育った此処鳥取市にてご開業。以来約34年、県歯科医師会長として10期20年、更に日歯代議員、県歯医会法歯会長等、日本・県の歯科医師会にご貢献された方であるゆえ、読者の先生方の中にはご存じの方も多きことであろう。

尚、現在も県の公安委員会委員長としてご活躍中とお聞きするから、今後は歯科医療界のみにとどまらず、更に大きく県民を守り・育てるためにご活躍されることであろう。ご本人はもう年ですからと言われるが、機智とユーモア、深い懐を感じさせる、歯科医療界には、まだまだ必要、指導を賜りたい方である。

副院長は昭和62年、院長と同じく大阪歯科大学をご卒業。卒後は大阪市内で約3年間勤務医を経験。5年程前に実家である当市に戻りお父様と共に診療生活へ。

父親と息子。とかく心の葛藤が多い中にある、その間を取り持つのが、副院長の奥様である美和先生。ご実家も神戸市で開業されていたが、先年お父様が亡くなられ、やむ

なく閉院されたと言われる。

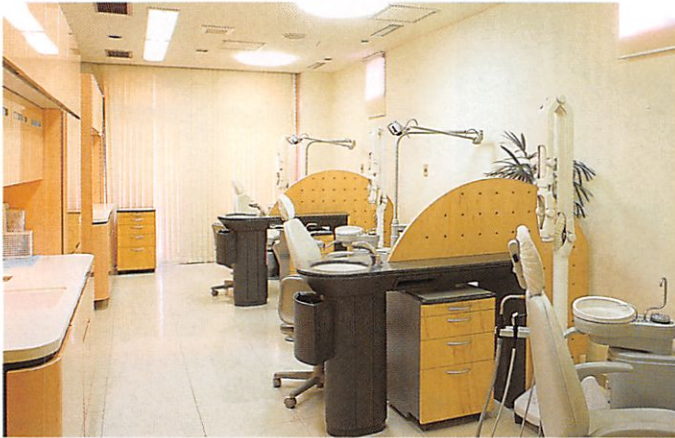
大学も同じく大阪歯科大学。副院長の3年後輩と言われるから、経験年数は5年。そろそろ中堅の域に入られる女性歯科医師。患者さんにも良さ相談相手として慕われていることであろう。

大ベテランとして、患者さんを心身共に指導される院長。誠実で真面目な印象を与える副院長。やさしい言葉と態度で患者さんの不安感を取り除く美和先生。三者三様、地域に根づいた、名実共に厚い信頼に裏打ちされた歯科医院である。

Q：院長先生。卒業以来ふり返って42年。今のご心境は？

院長：うーん。アツという間でしたねー。歯医者にならず、実業家になれば良かったと思った時もあるし…。総て良かったとは思わないなー(笑)。ただ長年当界にいて感ずることは、医師も含めて理料系の人間は物を見る目が時々片寄ってしまうとか、巾が狭いんですね。自身では左右を見ているつもりでも、視界の巾が一定で、ただ頭を横に向けるだけ、180°を一度に見渡すことが出来ない人が多いような気がします。その為、一度何かに魅せられるとか、心がその方向に向いてしまうとすぐマインドコントロールされてしまう様な気がします。常に自戒しつつ、広く世間を見、考えることが必要ですね。

Q：副院長、そうした大先輩を何時も目



の前にして、感じられることは？

院長：全然、尊敬しとらん。いつも私の言うことに反対ばかりしとる(笑)。

副院長：私は父とは正反対というか、政治的なことは大の苦手(笑)。ただ、診療室内では、技術的なことは、はっきり言ってあまり学ぶところはありませんが、患者さんとのコミュニケーションのとり方。これは数段上、勉強になります。

院長：苦手で向かんことはせん方がいい。口下手、酒、タバコ一切ナシ。アルコールを入れると死ぬと思っているんだから(笑)。(その間副院長はニコニコ笑って聞いている。うらやましい程の親子仲だ。)

Q：歯科医師になられた動機は？

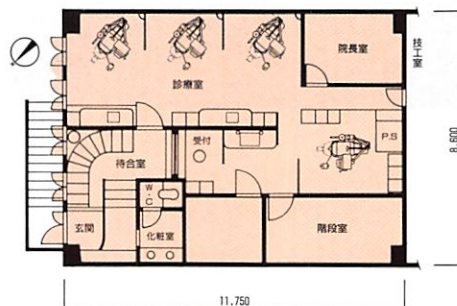
院長：兄が歯科医師になるべく大阪に行っていました。突然亡くなり。戦地に行くことがないと聞き、その道を継ごうと…。当時は定員120名でも80名しか応募者がなく、卒業時には60名。今は全く違う時代だったんですよ。

副院長：小さい頃から診療室や技工室で遊んでいましたから、歯科医院は生活の一部みたいなものだったんです。大学の受験時に、父が大病しましたので、長男でもあるしと、その時決心しました。

美和先生：私も主人と同じで、歯科医という職業が身近かで、成るのが当たり前のように感じておりました。亡くなった父も2人で診療をするのが夢だったらしいんですが…。今こうして主人と義父を見ていますと、うらやましく感じますね。

Q：診療室を作られるにあたってご留意された点は？

院長：開業後10年程たった頃、改築を思い立ち、丁度ヨーロッパ旅行があったので、



各地を回って写真を撮り、その中からイメージに合った建物を依頼、作り上げました。内部は2年前に、息子がどうしても改築したいと言い張り…。ケンカの末、じゃあ出て行くと言われシブシブと(笑)。

副院長：やはり、私達は一日中診療室内にいるわけですから、自分が仕事場に行くのがたのしくなる、そんな院内にしたいと全面改装しました。配色はなるべく少なめにし、それでいて病院らしい清潔感と患者さんにはやさしい、温かい感じを与

えるように心掛けました。父の説得、大変だったんですよ(笑)。

Q：オサダのスマイリー<ノーベル>。いかがですか？

副院長：横浜デンタルショーやショールームに行き色々調べました。ユニットはデザインも大切ですが、やはり機能的で無理のない設計、仕上がりが一番良いと思いますから…。家内の勤務先もオサダで評判も良いとの話から決定しました。

院長：私は前のままで良い。生干しのイカがぶらさがっているイメージの機械はイヤダ、と言ったんですが(笑)。今は、お世辞ではなく、アフターケアも抜群だし、企業の意志の疎通がしっかり出来ている会社だと感心しているんですがね(笑)。

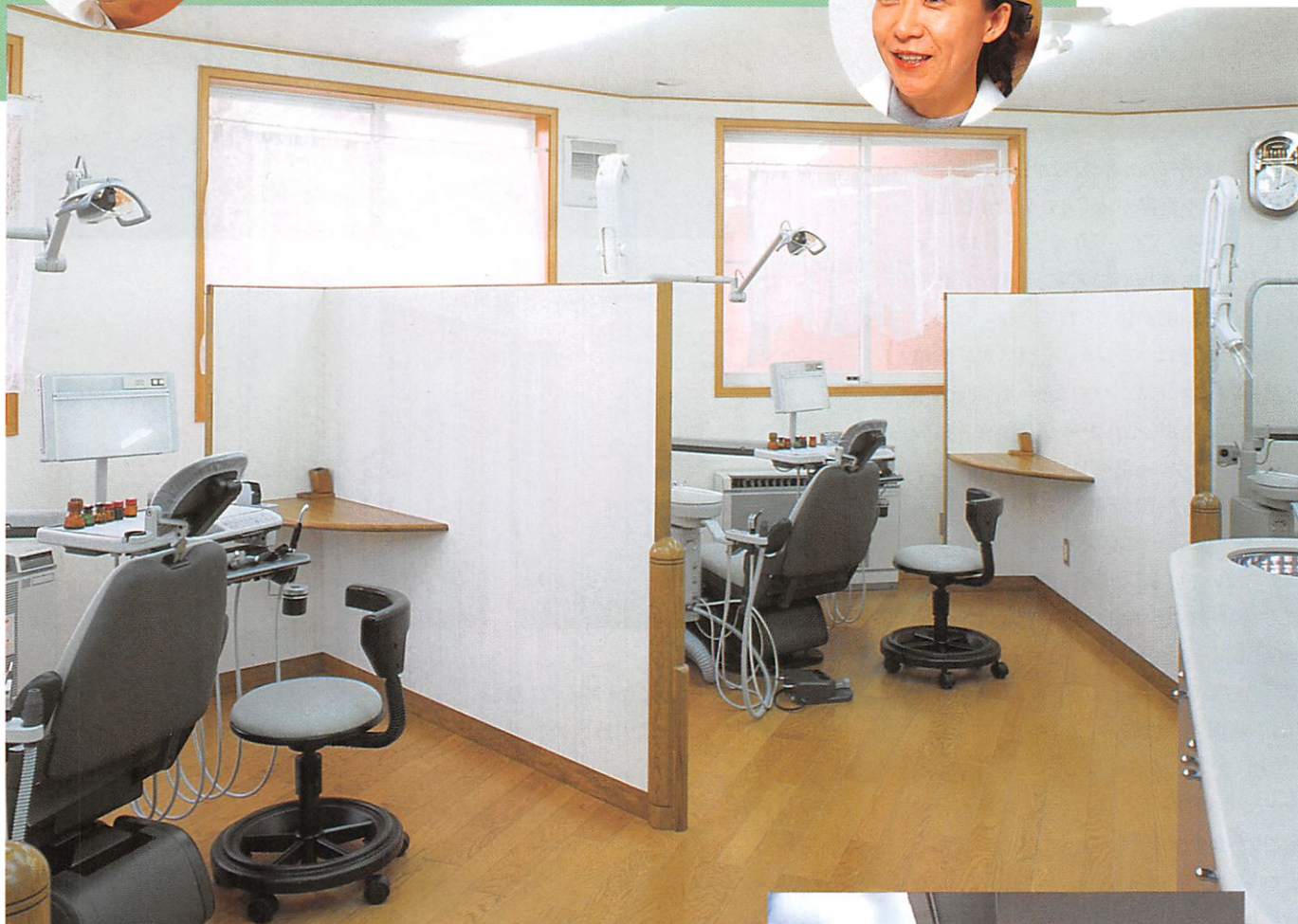
先述の様にユーモアに溢れ、人間としての魅力が一杯。いつまでもお話ししたい院長である。



千木良デンタルクリニック

宮城県白石市沢端1-28

院長 千木良尚志 副院長 千木良あき子
(旧姓・引地)

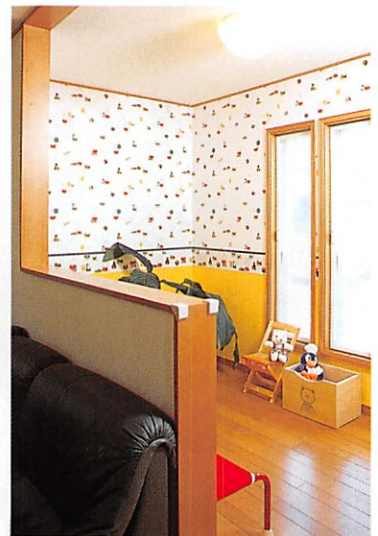


片倉小十郎景綱が伊達家から一万八千石を与えられ10代、260年間にわたり治めたとされる東北本線・白石市。戦禍をまぬがれた城下町だけあって、国道をはずれるとしっかりと街並みが続く。ご紹介の千木良デンタルクリニックも、前に市民体育館、側面に、その昔藩士がその流れを屋敷内に引き込み水車を回し、ひいた粉から町人が温麺(うめん)を作ったと言われる沢端川が流れ、中には緋鯉や真鯉が泳ぐという、素晴らしい環境下にある。又もう一方の地続きの庭には副院長である奥様のご実家、内科・耳鼻咽喉科を営む病院が建てられている。

医院の外壁はベージュ、屋根は黒で診療室部を八角形にした、やや変則・贅沢な作りを見せているが、それが静かな街並みに合い、モダンな中にも品の良い落ち着きを感じさせる。入口左手におそらく身障者用であろう、車庫とそれに続いてゆるやかなスロープが玄関まで続いている。行き届いた気配りである。スノコ状の靴ぬぎ場でスリッパを取り、ホールから上部が素通しガラスの引き戸を開け待合室へ。右手が子供用プレイルーム。その仕切りから側面の窓に沿って濃いグリーンゆったりとしたソファが6脚並んでいる。床はフローリング。壁面・天井は白だが、総て木目の縁どりがなされているためか、暖かい感じが伝わって来る。上部にやはり素通しガラスを貼めたドアを開けて診療室へ。入った途端、おっ、と思わず室内。図面でもおわかりのように中央に薄紫のキャビネットを設置し、六角形の窓に沿って、カウンセリングコーナー、内側に患者さんの物置き場を設けたL型のセパレーションと中にファインGMのL型とS型が2台ずつ、計4台並ぶという、採光充分、ゆったりとした診療室内。都会では考えられない程のうらやましい院内づくりである。

院長は昭和62年、昭和大学歯学部をご卒業。卒後は保存修復学講座に残り助手から講師へと8年間。その間、国内外への学会発表論文投稿を重ね、一昨年は博士号も取られたという努力・実力派。

副院長を勤められる奥様も同大卒の同級生。卒後は大学院(口腔衛生学専攻)博士課程を修了、同教室に助手として残り研究・勉強されたと言われるから、お二人揃って申し分のない実力である。ご開業は昨年8月。



ちなみに奥様のご実家は先述のように3代続く医者であり、奥様は引地家の19代目の当主にあられるという。お聞きするのを忘れたが、市の案内書には「…いくつかの武家屋敷が並ぶが、中でもひとときわ目立つのが旧引地家の屋敷である」とあるから、世が世であればお姫様。そう言えばどこかオツリ…。写真をじっくりご覧下さい(笑)。

Q: 素晴らしい診療室ですね。

院長: ええ、お陰様で(笑)。私は東京生まれの東京育ちなので、本当は東京で開業したかったんです…。2人とも大学病院での勤務が長かったので資金もないし、ゆったりと診療するのが夢だったので、土地に余裕のあるこちらで開業することになりました。少々贅沢かな、と思う部分もありましたが、スペースがありましたのでほとんど思い通りに出来、今は満足、恵まれていると思っております。

Q: ご留意された点は?

院長: 特には、院内感染ですね。埃のたちそうな建材は総てさげ、といって冷たい感じは嫌ですので、床は総てフローリングにし、冬にそなえて床暖房。ユニットに

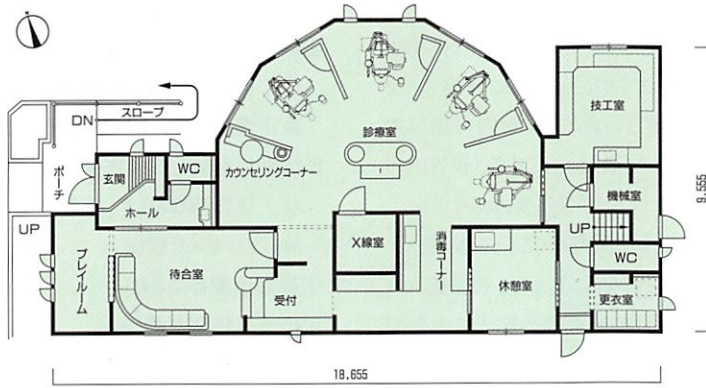
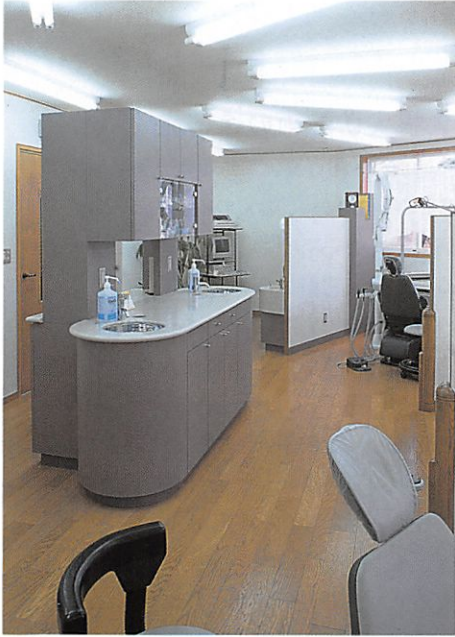
はそれぞれ口腔外バキュームを取り付けました。

副院長: 歯科医院らしくない歯科医院(笑)。機器やパーティション、キャビネット等も寒色系をさげ、暖かい雰囲気をと。患者さんがリラックスした気持ちで診療を受けられるように心掛けました。

Q: 歯科医師を志されたのは?

院長: 両親も兄も教員で医師関係は身内にもいないんですが、小さい頃から医師になることを志していました。ところが合格したのが早稲田の理工学部と昭和で…。歯学部からも医学部へ編入できるといって昭和大学を選びました。入学時には医学部に編入しようと思っていましたが、寮生活(同大は1年間富士の裾野で義務づけられている)が面白く、勉強もせず…。今日に至りました(笑)。

副院長: 私はご存知のように医者の1人娘で、学生時代に父を亡くしました。小さい頃から、働く母の姿も見て育ちましたが、



大変な職業だな、と思う反面、医者として働く母が、誇りでもありました。そして、女性にとっても、働き続けることは大切だと言われておりましたし、働き続けるためには何らかの資格や技術が必要だと実感していましたので、歯科大へと進みました。今は、やはり医療関係の仕事は私に合っているな、と思っております。

Q：この辺りも歯科医院は多いのですか？

院長：多いですね。ですから初めは1日15人位来院されればと思っていましたが、実家の名前が通っておりまして、予想を上回り、30人位かな。新患も1ヶ月100人位です。初めは紹介患者でも、キチンとした治療をやれば、その方の家族、更に口伝えと増えて行きます。でも私は何でも自分でやりたい性格ですから(笑)、2人で40人が限界。週休2日で50人診るより、休みも働き1人15人の方がいいんです(笑)。

副院長：初診の患者さんは総て院長が診て

方針を決めます。その方が言っている内容は同じでもニュアンスに微妙な違いが出て、患者さんが迷わなくて良いと思いますから。

院長：でも時々お年寄りの方の方言がわからず…。その時は手伝ってもらいますが(笑)。

Q：院長の診療に対するモットーは？

院長：スタッフにも常々言っておりますが、絶対に出し惜しみや手抜きをするな、挨拶や器具・器材等を含め、院内について常に自分で考えられることを全力でやるようにと…。私自身もそう心掛けています。

Q：ご自身の勉強等については？

院長：2人共大学に8年残っていたぐらいで、研究が好きなものですから、しょっちゅう学会には出かけます。又、大学も理解がありまして、医局にまだ籍を残してくれ、2人共兼任講師をしております。

Q：オサダの<ファインGM>。何故お買上頂いたのですか？

院長：患者さんと私達との関係もそうですが、まず第一はヒトですね。学生時代やアルバイト時代も含め色々なメーカーを使い、担当の方にも会って来ました。特に学生時代の臨床実習の時など、君達の使い方が悪いんだと露骨に言われたりして…。その点オサダさんは常に丁寧に説明。そうした紳士的な態度が好きでした。もちろん故障も一番少なかったし、使いやすかったですよ。でもお世辞ではなく友達も言っています。今は無理でも余裕ができたらオサダを使いたいと…。私は、ここまで診療室を作ったんだから、他社を入れて後々後悔したくないと…。オサダのユニットを入れて、これで壊れたら仕方がないと覚悟しております(笑)。

副院長：院長が8年間も臨床にいて、色々なユニットを使った経験からの結論ですので私は何も言いませんでした。でもファインGMは初めての経験ですが、すぐ慣れて…。使いやすいですね。



Z O O M で C L O S E - U P



西野恭正先生 の巻

高知市三園町264

(社)日本歯科医師会 副会長

広い肩巾、厚い胸、長身。今年70才と言われるが、言動もキビキビと明るい笑顔はとてその年には見えない。それもその筈、若かり頃は水泳のオリンピック選手であられたと言う。欧米では時々聞かぬが、日本の医・歯界合わせ20万人近い中では皆無と言っていないのではないだろうか。

今回は日本大学同窓会々長であられる白田貞夫先生のリレーにより、日本歯科医師会副会長、高知県歯科医師会々長を兼任される西野恭正先生にご登場頂きました。

「白田先生とは日本大学歯学部同窓生であり、日歯会副会長の前任者であることから、もう長いおつき合いですね。年齢は私の方が10才程上なんです、何でも話し合える仲で、色々教えられることも多いです。タテ割り意識が強い同窓会の中であって、良き友人として長年つき合ってきたということは、先生の体格に比例した(?)大きな心の持ち主であることを物語っている。

——東京と高知を。超多忙な毎日でしょう。「ええ、10月～11月は特に忙がしく、東京で5日間、各種の会議に出席し、土曜・日曜を高知で過ごし、又月曜から東京という週が多かったですね。今週も火曜日に上京夕方から日本医師会の忘年会に出席。金曜日の夜帰る予定です。「昨夜は医師会のパワーを見せつけられる思いでした。出席者も厚生大臣から局長、審議官、民間関連企業の代表者、全国都道府県の会長、医事評論家等多彩な顔ぶれで、盛大な会でした。歯科界の方が小さいだけに結束の固さは強いと思われませんが、パワーのすごさは残念ながら少々上というのが実感でしたね(笑)」と正直に。

お生まれ育ち共高知県。お父様が歯科医師であったことから、日大歯学部へと進む。「昭和17年に入学したんですが、当時は総て戦争が優先。卒業もなるべく早くということで、半年くりり、20年9月に卒業させられてしまいました(当時は専門学校で4年制)。学生

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

時代も本土決戦に備えるということで、軍事教練の明け暮れ。地雷を持って上陸して来る戦車の下に飛び込んで行く、戦車と命を交換する訓練をしていました」。

——今の歯科学生では考えられない様なオリンピック出場の水泳については? 「小さな頃から好きで、各大会で優勝していたことから、大学も早稲田や慶応、立教や明治その他10校以上から熱心な勧誘を受けましたが、親父が歯科医であったことから歯科のある日大に入りました。でも戦争が末期に入り、とても泳いでなどいられない時代となり、終戦と共に卒業後一旦は故郷に帰りました。が、21年に戦後第1回の国民体育大会が宝塚で開かれることを知り出場、優勝したんです。そこで後年世界新記録を出し日本中を沸かせた古橋選手(現J.O.C会長・日大出身)などを知りました。大学から、ぜひ又復学をと熱心に勧めら



れたんですが、一度卒業したのだと迷いました。が、医学部なら共通するし、将来にも役立つだろうと、それを条件に9月に上京。だが、新学期が既に始まっていて、経済学部なら良いが医学部は来年まで待ってくれと。勉強はもうアホらしいと、結局経済学部を卒業しました(笑)。水泳についての私の履歴は、ご存知かと思いますが、昭和15年東京オリンピックが紀元2,600年を記念し開催されることになっていたのですが、戦争のため返上。19年も戦争の真っ最中で中止。戦後23年にロンドンで開催されましたが、日本、ドイツは戦争責任をとって参加することが出来ず、やっと出場出来たのは27年に開かれたヘルシンキ大会、27才の時。選手の中では最年長でした。私が

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

日大水泳部でキャプテンをやっていた頃、後輩に古橋氏や橋爪氏等が入って来まして、当時彼等は18才～20才、最も体力のある年齢で、私も、もし23年のロンドンに出場出来たら記録を残せたかも知れませんが、その4年後でしたので体力の頂点は過ぎていたのでしょうか(笑)。時々若い人に話しますが、人間チャンスは何回も来ない。それをキャッチ出来る人は幸運だと…。「でも戦争で良いこともあったんですよ。戦時中アチコチに防空壕が掘られ、敵機来襲時に逃げ込んだんですが、中は女と子供ばかり。兵隊に行き手手が足りず、学生だった我々が少し手助けすると、後で必ず握り飯をくれたんです。とにかく年中腹が減っている年頃でしたから、それがうれしくて、空襲警報が待ち遠しく感じたこともありましたよ(笑)」。今ではとても考えられない様なお話であるが、ただ、どんなに苦しい時でも明るさを失わず…。そんなご性格が今日を築き上げたのであろう、とは想像出来る。

——日本歯科医師会の副会長としての展望は? 「大学を含め、私は東京に来て色々教えられることが多く、又勉強しましたが、まだまだ当界は力不足というか、目先の解決にばかり目を奪われているような気がします。一般の人から先生先生と呼ばれ、それに甘んじ、経営は、言い方は酷かと思いますが、ドンブリ勘定的な医院経営も多く、経営者として必要な税法や保険医療の成り立ち等の基本すら解っていない人も多い。私達の力不足かも知れませんが、歯科界も大きく目を開き、21世紀から更にその先を考え、真の力をつけないと駄目だと感じております」といささか手厳しいお話。又、歯科機器界についても「医科は何億というお金をかけ、各疾患部の患者にコンピューターや検査機器を駆使し、身体に関する一大総合センターを作り上げています。が、歯科は今だにキーン、キーンと鳴るあのタービンで歯を削り、椅子一つを取っても構造に真のサービスがなされていない。レーザー等を今少し研究し、来院者はもとより来たるべき高齢化社会に備え、在宅診療にも手軽で持ちやすい機器の開発をして欲しいですね」。身近な例から大所高所に至るまで、厳しいが機器界にとっても参考になるお話。

ザックバランで気やすく親しめる、元スポーツマンらしい爽やかな印象が残る副会長である。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

はじめに

文化の差もあるのだろうが、アメリカ側からみる限り、これ迄日本人は歯のことに驚くほど無頓着だった。

アメリカの歯科医の間では、日本人は「アタタタ…」つまり歯が痛くなってその苦痛に耐え切れなくなって初めて歯科医に駆け込む、そして日常の歯の手入れが悪い、というイメージが定着している。

先進国日本の人達は、流石に歯は磨くようだがフロスとならず使わない、歯科医のところに出かけて行って定期的に歯垢・歯石をとろうとしない、悪い歯並びとくると全く無頓着——、といったことだ。ひと言でいうと、口腔衛生に関しては、アメリカでは日本はまだまだ発展途上国並みとみられていると言ってよい。

しかし海外駐在の体験者が増え、「人生80年が常識となり、厚生省の「8020運動」などの影響からか、日本人の口腔衛生に関する認識が近年高まりつつあるのも確かと言えよう。

一方この分野では先進国のトップを行くアメリカでは、口腔衛生の自己管理が益々進んできた感が強い。これ迄の他力本願式に歯科医による定期的チェック、虫歯治療、歯垢・歯石除去、歯並び矯正といった口腔衛生管理に、「自力」が加わってきた、ということだ。

これはひと言でいうと、歯の衛生と身体との密接な関係を認識する人々が増加してきたということで、結果的に「もっと効果的に磨ける歯ブラシはないか?」「もっと良い虫歯予防の歯磨き剤はないか?」「歯みがきは?」そして更に「自分でタバコやコーヒーで汚れた歯をきれいに出来ないか?」「自分である

程度歯石をとれないか?」となってきたのは明らかで、お陰でドラッグ・ストアやスーパーはそれらの商品が溢れるほどとなってきている。

オーラル衛生商品群

ストアのオーラル衛生セクションに所狭しとひしめく各種の様々な商品を見ていると、何だか自己管理に含まれる別のメッセージが伝わってくる気がする。それは、「本音で言うと、歯科医に行くのが億劫で…」といったメッセージだ。

気忙しい世の中になって、その時間が無い。痛い思いをしたくない。そしてお金がかかる…、といった大衆の理由づけの声が聞こえるようだ。だから痛くなって、悪くなってから行くと、余計治療に時間とお金がかかり、また痛い思いをする度合も強まるから、「予防に努力しよう」ということでもあるらしい。

「人生50年」時代には無頓着でいられたことが、「人生80年」となるとそうは行かなくなる。生きている以上は出来るだけ快適に過ごしたいというのが人情だが、年をとってくると「口の成人病」といわれる歯周病が増える、歯が抜ける、結果的に食生活に支障が起きる…。

この、歯を支える周囲の組織がやられる歯周病にかかっている人口数は、軽いケースも含めるとアメリカではティーンエイジャーの60%、大人の50%と言われ、日本では45才から54才の層の85%と厚生省が発表しているが、成人が歯を失う原因の約50%とされるほどだ。積重ねに説法の感もするが、最初は歯ぐきが赤くなり腫れてきて、歯を磨いたりしていると出血しやすくなるのが特徴の歯肉炎で始まるケースが最も多い。

この初期段階ではブラッシングとフロッシ

ングの自己キャンペーンを開始さえすれば、大体直ってしまうのだが、何せ痛みが無いから危機感が伴わず、つい放っておいて歯肉炎の次の段階の歯根膜炎を引き起こしてしまう。45才以上の米人口、特に高齢者層がこれに悩んでいると言われる。

痛い思いをするのが嫌で、又は「忙しい」という口実のもとに治療を先に延ばしていると、到頭行き着くところに達し、歯の根っこが埋まっている骨がやられて手術を必要とする歯槽膿漏となる。それだけでは無い。歯肉炎の各段階で侵入した細菌が、血管を通じて心臓病の原因となったりする、なんて恐ろしいことも分かってきたから、本格的に出来るだけ、自分で自分の口の健康に心掛けるアメリカ人が増えてきたのだろう。

歯ブラシ

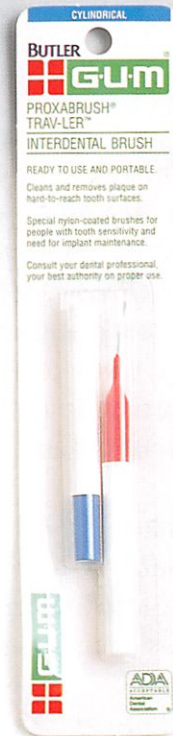
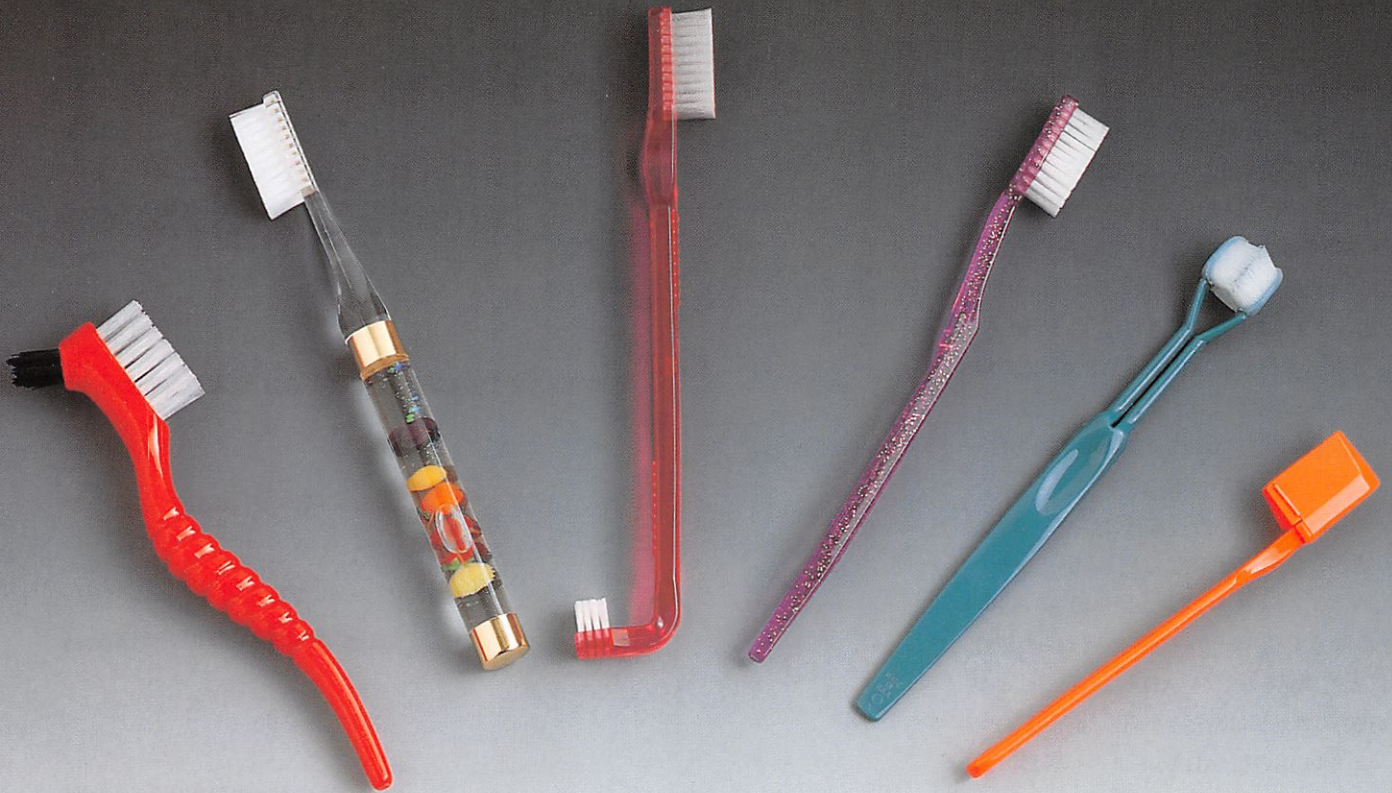
これ迄の通念だった「虫歯予防(歯のケア)」が、口腔全体のケアという意識に展開し、各種様々な「効果的」歯ブラシの登場ぶりは目まぐるしい程である。

つい数年前迄、歯ブラシといえばブラシが固いか柔らかいか、大人用か子供用か、そしてマニュアルか電動か、ぐらいの選択で済んでいたのが、此処一年位でゾクゾク新型が登場してきた感じだ。ブラシの表面がこれ迄の様に一率でなく「ギザギザしているから歯の表面だけでなく隅々迄磨ける」もの、先が細くなった「ダイヤモンド形だから奥歯の隅々迄効果的」なもの、ブラシの頭が「曲がっていて内側や奥歯に効果的」、真中の部分のブラシが縦に青色となっていて「このブルーの色が半分近く下部に向かって薄れたら、新しいブラシと交換!」というもの…。ちなみに殆どの人は少なくとも同じ歯ブラシを9ヶ月は使うそうだ。

神経痛の人などが持ち易いようにと工夫された歯ブラシ(ブラシの頭が曲がっていて、



アメリカにおける 溢れる歯みがき商品群の実情



手は大型のゴム・ハンドル形式)、子供用「キッズ」は手がクネクネしたスプーン形式、一寸ライターを思わせる携帯用・旅行用の新型、ブラシが小型になって歯を三方(上と左右)から包む形式のもの。これは「歯だけでなく、ガムも同時にマッサージします」。

この歯を三方から包むもの「ウルトラロン・ブリッスルズというナイロンより200%柔らかいブラシを使っています」や、「あなたは歯ブラシの頭を噛むだけで、後はこれが1分間に300回転して、あなたの歯の全面とガムのクリーニングをします」という電動ものなどがある。

小指の先ほどの歯ブラシ(歯と歯の間や隅用)があるかと思えば、瓶みがき式毛ブラシのミニ型もあり、これは歯と歯の間用とある。

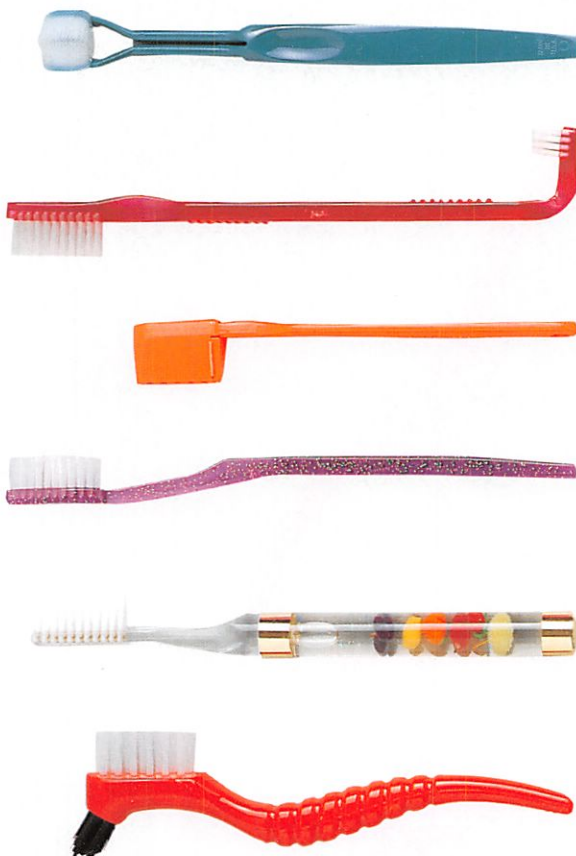
あまり色々出てきて消費者の混乱をまねいたらしい。ADAが最近調査にもとづくコメントを出したが、それに依ると、「電動歯ブラシはマニュアルのものより確かに歯垢・歯石をもっと除去する。メーカーによってそれらの値段に大差が見られるが、ADA(認可)シールがあるものの効果は殆どみな同じ。47種類のマニュアルのものも、ADAシールのものは同様」で、頭のアングルや形式はそれ程気にすることはない、といった感じだ。ただブラシとなるとハッキリした意見で、「ソフトの方が歯の隙間をより良くクリーンし、ガムを優しくマッサージする」となっている。

デンタルフロス

「健康な口」は、基本的にはブラッシングとフロッシングで維持される。毎食後にやるのが理想的だが、とにかくこの二つを丹念に実行すればバイ菌は口内に足掛かりを見つけてそこに定着し、次々と集まって植民地的に繁殖することは出来ない。しかしいくら丹念に歯を磨いても、歯の隙間や歯ぐきの上部内側はうまく行かず、バイ菌の溜まり場となりがちだ。

そこをフロッシングで清潔に、というわけでこれ又色々な種類の登場となっている。最初はワックスをひいたものとそうでないもの位の選択だったのが、最近はベーキング・ソーダー、ミント・フレーバー、オレンジ・フレーバーと味や色がつき、「プレジジョン・フロス」なんてハイテク気分を打ちだしたのまでである。

効果的にはどれも似たり寄ったりだろうが、



味が気に入ればもっと気軽に使用することになる、というメリットはあるだろう。

歯ミガキ剤

現代人のニーズと要求から、虫歯と歯石と歯周病の「予防に効果的」でないものは、歯ミガキ剤とみなされない感じとなってきている。

だから棚にずらりとひしめく歯ミガキは、そのパッケージングで「それらが全部入ってます!」とやるわけで、瞬間に別のアングルが必要となってくる。150年のベーキング・ソーダー生産実績を持つアーム&ハマー社がこの業界に入って来て「ベーキング・ソーダー」歯ミガキ剤を売り出したのは確か2~3年前の事だった。

何せ1世紀半も米家庭で親しまれてきた製

品で、イメージも良い。それが「歯を清潔にし白くキレイにします」というのだから、あっという間に他のメーカーの歯ミガキも、今ではみなベーキング・ソーダー入りとなっている。

煙草は喫うし、コーヒー・紅茶・緑茶も人一倍飲む私は、真っ先にベーキング・ソーダー歯ミガキ剤を使い出した人間の一人だが、味も爽やかでなかなか具合が良い。以来これ専門の愛用者となってしまっている。

ところがつい最近、ペロクサイド(過酸化水素)入りがおめえした。前出のアーム&ハマー社の新歯ミガキ剤「ペロクシケア」で、ベーキング・ソーダー+ペロクサイドでフッ素入り、ミント味、歯垢防止歯ミガキ剤である。ペロクサイドは漂白力があり、これに他社の歯ミガキ剤も素早く登場中だ。



アメリカにおける 溢れる歯みがき商品群の実情



子供向け歯ミガキには、これらの他に「ハ
ワイアン・パンチ」や「オレンジ・バブル・ファン」
といった味つきのものがおめみえしている。

リンス

歯と歯ぐきのヘルスに効果的歯ミガキで、
丹念にブラッシングとフロッシングをする傍ら、
更にリンスでブクブクやって仕上げる人口が
増加している。リンスは以前、口臭防止目的
で使用されるのが殆どだったが、これも近年
歯垢や歯周病防止に効果があるという知識
が定着するにつれて、口腔衛生の自己管理
の為に欠かせないものとなってきている。

結果的にこの分野でも多数のリンス登場と
なっているが、やはり昔から定評のある「リス
トリン・アンタイセブティック」が、口内の細菌
増殖をおさえ、歯垢となって歯肉の炎症を引
き起こすのを防止するのに最も効果的なよう
だ。

事実長期テストで、リストリンが歯垢の28%
歯周病の30%をカットすると判明している。私
はリストリンの愛好者だ。数年前歯周病で奥

の歯ぐきが腫れて、次に歯が浮いた感じとな
って激痛に悩まされた際、歯科医はペニシリン
を呉れ、それで一時おさまったものの、数
カ月後、又再発し、又ペニシリン。歯科医は
「腫れている間は指で、腫れがひいたら柔い
歯ブラシで、丹念に歯ぐきをマッサージなさい」
と言う。それでも半年ごと位に再発するので、
到頭本格的に自己管理に精を出すこととなり、
その過程でリストリンに出合ったわけである。
一日に3回ほど歯を磨き、その都度リスト
リンで丹念にうがいたお陰で、この痛い歯
肉炎の再発に悩まされなくなっただけでなく、
風邪も引かなくなった。

これより強力な歯垢は55%、歯周病は45%
カットするとテスト結果が出ているのは「ペリ
デックス」だが、此方は処方箋が必要。

その他

「健康な口」の最強敵は歯垢との認識が広
まり、この分野でも自分でそれを除去出来る
商品が次々と誕生している。

簡単なものでは持ち歩き出来、どこでも簡

単に歯の間に差し込んで、歯ぐきのマッサー
ジも兼ねた平べったく大型爪楊枝形式のもの
で、ミントの味の25本入りで使い捨て。歯垢
とりをもっと本格的にしたければ釣針の様な
あの専門的なものもあり、金色の万年筆形式
で、使用後キャップをして胸ポケットに差し込
めば、他人には「万年筆」としか見えない。

そして最近やけに目につくようになったの
は、歯を「白く磨く」商品だ。食物やコーヒー、
タバコで色付いた歯やその部分を自分で白
く出来るというもの。

気忙しい現代人向けには、漂白効果のある
ペロキシドを使ったジェルがあり、綿棒や指
先でそれを歯の表面になすりつけるだけで良
い。1分も経たない中に微細な白いアワとな
って歯の表面、各所の酸化が始まる。3分か
ら5分そのままにして置いて、あとは歯を磨い
た後やるようにブクブクするだけで良い。一
日に2回これをやると、2週間でピカピカの白
い清潔な歯になるという。

もっと本格的なものでは、小さなゴムの頭が
ついた歯ポリッシュがあり、バッテリーで電動
する。「1週間に1回」と「1カ月に1回」用のペ
ーストがついていて、これをカップ式ゴムの頭
に入れて、又は指先で直接歯にすりつけて、
スイッチをオンにしてやるわけだ。

私はこれを買ってテストしてみたが、歯の
隅々迄汚れがとれて効果抜群で、長期間や
ってみなければわからないが、今のところの
感想ではもう歯科医のところでも定期的にク
リーニングして貰う必要はないんじゃないかと思
う程である。

G・NYデンタルミーティング でみた商品群

11月末にジャヴィツ・センターで開催された
このショーで受けた印象は、口腔衛生商品群
が更に増え、多角化し、ファッション要素迄加
わってきている、ということだ。

従来の歯ブラシは何だかもう時代遅れとい
う感じとなってきて、今やブラシの表面が平坦
でなく凸凹しているのが当たり前、英語ではネ
ックとなる手で持つ部分も従来の真っ直ぐで



アメリカにおける 溢れる歯みがき商品群の実情

とハッキリした反応だ。プロクサイドとベーキング・ソーダー入りの歯みがきが、最も効果的との意見なのは明らかで、又、「とても美味しいです」から、とつけ足した。英語で「グッド・テイスト」を、食べることが趣味の彼女は「美味しい」と覚えているらしい。

それはさておき、商品群の急増の理由は、アメリカ人の口腔衛生の自己管理意識が高まって来ているから、とこれもハッキリした意見だが、「日本人はまだまだですねぇ」とつけ加えることを忘れない。日本人の歯の話となると、彼女の口調は嘆きに近くなる。

それで話の流れから、近々日本人としての私の口腔衛生管理を見て貰うことにした。採点して貰う為である。研究に熱心で、また驚く程率直に話す人だから、日米比較で色々面白い有意義な話も聞かせて貰えるだろう。

デンタル・フロスも急増しているが、これに関しても彼女の意見は歯ブラシ同様「どれでも大した差はない」と言った感じだ。要は使用することが大事、ということだ。あえて言うなら「グライド」を推薦、その理由は「使い易い」から使う頻度も増えるだろうから、とのこと。

商品群の多くに「ADAマーク(認可)」がついているのでその件を聞いてみた。私の理解では、このマーク使用申請に当って、メーカーは商品を提出し、ADAは内外の検査機関で厳しいテストをして…と聞いている。しかし彼女の返事は意外だった。

「フッソが入っていれば、歯みがき剤はADAマークを使えます」

と言ったものだったからだ。

全くの新製品となると、ADAマーク使用に当って「すぐく時間もお金もかかりますがね」と言うことだった。

筆者紹介／岩本蘭子

ボストン大学大学院ジャーナリズム科卒業
ランコインターナショナル社長

垂直なのは古くさく見える。

ネックの太さや形もマチマチとなっていて、曲がったもの、子供用のは素材も柔らかくてスクイーズ出来るもの、親指の位置がついたものなどが登場している。更にネックの部分が透明で中に手の動作に添って上下に動く小物が入っているもの迄ある。これはブラシの部分を取りはずし、新しいブラシと取り替えられる仕組。

ブラシの方も従来の白だけというのが少数派になってきて、色つきが増加している。特に子供用のはネオンカラーで鮮やかなものが多い。色彩豊かだと、子供は歯みがきに「意欲的となる」と言う。

ブラシの形も様々となっていて、特に目立つのは小指の先ほどの超小型のもので、先がとんがっていて歯の隅々、裏側、歯のつけ根の部分のプラーク除去や防止に効果的と言う。

歯科治療に行くと、ブラシやフロスをおみやげにしてくれる慣習があり、私もこの超小型のブラシを貰ったので面白がって週に三回位

使っているが、なかなか調子が良い。普通のブラシで磨いた後で、その気になった時使うのだ、確かに奥歯の根元迄行きとどく感じだ。

段々自己流になってきて、本来は歯みがきをつけてやるところ、私は「プラス+ホワイト」なるジェルをつけてやっている。これは歯を一層白くすると謳っているペロクサイド・ゲルで、一日二回綿棒か指でこのゲルを歯の表面になすりつけて「三分から五分そのまま」と指示書きにある。私が指示書き通りにやったのは最初の二回位だが、一分たらずで白い泡が出て来る。三分位でブクブクしてみると確かにスッキリした感じになる。しかし三分口を開けたままで辺りをウロウロするのが嫌だったので、代わりに超小型ブラシで磨くという自己流となった。

普通の歯ブラシの下方反対側にこの超小型ブラシがついたのも出現している。これを開発したというジョージア州のJ・ヒッキー医にサンプルを一本貰ったが、くれたのは「世界で16本目」に当たるそうだ。型を作ってから大量生産に入るその前の段階だからで、名

称は「ドゥ・ヒッキー」ブラシと言うそうだ。

ジーン・古山医の感想

この紙面で以前取り上げた米女性歯科医の古山医(ご主人が日本人)と話してみた。目的は、この急激な口腔衛生商品群の出現の意味するところと、それらについての感想を聞く為である。

「貴女はどんな歯ブラシを使っていますか？」と先ず質問したら、



G・NYデンタルミーティング

「只で貰うものを何でも使ってます」と流調な日本語で答えて、大笑いした。

「本当に？」と此方は英語という可笑しなやり取りとなった。「こんなに色々出ているのに…？」

「大した変わりはありませんよ」

と、又、笑う。メーカーからサンプルが送られてくるのを使っているわけだ。歯科医はそれらを自分で使ってみたり、患者におみやげとしてあげたりする。歯科医がそのメーカーのものを売ることはしないが、本当に良いと思えば推薦することになるだろうし、おみやげに貰った患者が気に入ってそれを使うようになるというものだ。

彼女は電動よりもマニュアル派で、一日に最低三回、多分五回位歯をみがくそうだ。

「どんな歯みがき剤を使っていますか？」

又、何でも只で貰うものを、という返事かな、と思ったら今度は違った。

ああ、これは買います。「メントゥ」で、プロクサイドとベーキング・ソーダーが効果的にアレンジされているものです」

オサダの商品<お元気ですか>

鈴木歯科医院

長野県木曾郡木曾福島町 5785

院長 鈴木邦夫
副院長 鈴木健司



飛騨・木曾2つの山脈の山間を流れる木曾川とそれに沿うように走る中山道(国道19号)。藤村が小説「夜明け前」の冒頭で“木曾路はすべて山の中にある”と書いているように、昔の旅人には険しい道々の連続であったであろうが、交通が整備された今は、各地に残された宿場町にロマンを求めてやって来る観光客で四季を通じて賑わっている。

ご紹介の鈴木歯科医院のある木曾福島町の街も木曾(源)義仲に縁深い町らしく、関所跡

や軒の低い旧家、代官屋敷等がまだ残る、現代人には郷愁をさそう町。医院も木曾川を渡った角地に静かなたたずまいを見せ建っている。

院長は昭和39年、日本歯科大学をご卒業。卒後は東京・北品川にある宮田歯科医院に約2年勤務された後、お父様が昭和20年以來開業されていたここ木曾福島町に戻り、先年亡くなられるまで約15年、共に診療生活を。「私が卒業後臨床医としてスタートを切った宮田歯科医院は、設備はむろんですが、患者さんとの信頼関係も厚く、“医師とはこうあるべきだ”という確固たる信念に貫かれておりました。私の臨床医としての基本的な考え方はその出発点である宮田庄三郎先生、高橋秀治先生のご指導にあり、その姿勢は現在も持ち続けており、感謝致しております。“鉄は熱い内に打て”という言葉があるが、人生のスタートに良き師を持つこと。参考になる素晴らしいお話である。

副院長を勤められるご子息健司氏は、平成4年、日本歯科大学新潟歯学部をご卒業。卒後は東京・新宿で約2年半勤務医をされた後一昨年9月お父様の元へ戻り、3代目を継ぐべくスタートを切られた。

現在院長は県歯会の理事、副院長は郡歯会の理事として親子揃ってご活躍・貢献されている様子。開業医としておよそ半世紀。今はともかく、往時は山村の中にあつて、患者さんには頼れる歯科医院として厚い信頼を受けて来たことであろう。



— 3代目のご誕生。今のご心境は? 「昭和41年に戻り親父と共に約15年、1人になって12~13年診療一筋にやって来ましたが、息子が帰って来まして少しホッとしてい

ます(笑)。私が戻って来た当初は丁度日本の歯科医療界が大きく変わった頃、親父の時代は衛生士や助手も雇わず、技工も診療が終わってから自分でやった時代、よく論争しましたよ。でも今度は自分が親父の立場(笑)。今後は私の経験と息子の新しい感覚をマッチさせ、患者さん本意の診療をやって行こうと思っています。

— 副院長のご心境は? 「祖父の代から3代に亘って診療に来られる患者さんもいて、

親父は他社製品でしたが、私の代になってオサダに。
地域での開業はやはりアフターケアが良いメーカーが一番大切。
15年前買ったスマイリーも今だ活躍中です。



正直のところ少々プレッシャーを感じることもありますね(笑)。当初は“治療は院長に”と言われると、多少ムツとしましたが、今はほとんど感じなくなりましたし、患者さんの方もわかって来たようで(笑)。父から学ぶべきことはやはり診断力ですね。診療の幹(みき)自体は変わりませんが、どのような材料を使って、どのように治して行くかの診断・判断力はまだまだかかいません。今は帰って来たばかりですので、親父のスタイルをそのまま受け継ぎやっておりますが、その内徐々に院内の雰囲気などを含め、私のやり方や意見などを出して行きたいな、と思っています」。

「地域医療で一番大切なことは、患者さんとの信頼関係。私も、もし息子が帰って来なかったら知らなかったな、と思うことがちよくよくあります。患者さんのために良いと思う新しい発想やテクニックなど息子から学ぶべきところはどんどん採り入れ、一方突き離すべきところは突き離して、と思っています。親父から受け継いだこの医院を、3代目にどのような形で受け渡すか。私の役目であると考えています」と院長。



お二人で話し合いながら、笑みを絶やさず話される。親子断絶など微塵も感じられない。それは次の言葉に「私は祖父、父の診療を毎日見て育って来まして、

僕も大きくなったら、あの様にいっしょにやりたいな、といつも思っていました。その夢が今かないました」と言われる副院長の言葉に総て表れている。院長は、よく論争しました、と言われるが、それはお互いの心が通じ合った上での気持ち良い論争。先代との診療生活が目に見えようでもあるし、子育てとはそういうものだ、と教えられる思いだ。

ほぼ正方形に近い診療室内に、15年程前にお買上頂いたブルーとベージュのツートンカラーのスマイリーと最新の濃淡グレーのファインGM・RLタイプ3台が角形にとった窓に



沿って設置され、消毒、準備コーナー等も同じく背面角形に一括されている。「親父は他社製品を使っておりましたが、私の代になってオサダに変えました。やはり決めてはアフターの良さですね。初期のスマイリーを15年使っていて、1台を残し、昨年1月ファインGM・RLタイプを入れましたが、使いやすいですね」と院長。「都会と違って、トラブルがあった場合はすぐ来てくれるメーカーが地域の医院では最も大切。子供やお年寄りの治療を考えRLタイプにしましたが、見た目の清潔感、院内感染への気くまり等、よく考えられたユニットで満足です」とうれい副院長の言葉。

通された院長室には学校歯科や看護学校その他各種の感謝状や表彰状が飾られている。中に内村鑑三が中軽井沢で避暑中、歯の痛みに苦しみ、治療してくれた歯科医のために書かれたと言われる“Dentistry is a work of Love”の色紙が。「ええ、これは長野県下全会員の心構え・目標なのですが、息子にもこの心を受け継いでいって貰いたいと思っています。日々の診療、経営は年々厳しくなりつつありますが、この言葉“歯科医療は愛の仕事なり”を守っていけば大丈夫。我々の仕事の心の支えです」と言われる。

——県歯会の理事をされ、感じられている

ことは「高齢化社会を迎えての在宅診療や障害者施設への訪問診療、又会主催の各種行事への参加等、これからは若い方が中心になって歯科医師の向上・発展を、と思っておりますが、現実には子育てや借入金の返済に加えて医院が過密状態にありますから、休めば自院の患者さんが他に行ってしまうという不安感も重なり…。皆さん決して協力を惜んでいるわけではないのですが…。そうした状況を何とかしなくては、と感じております」。「理事になり、この仕事は会員の悩みを知り、かつ実行力、決断力を備えていないと出来ない仕事。名誉だけではとても無理だと知りました」と役員としての立場を話される。又こうも「私は息子が帰り多少肩の荷がおりましたから、これからはマイペースでゆとりを持った診療や趣味も少々と思っていたんですが、執行部に加わり、それも少し遠のきました」と正直に胸の内を。

待合室には午後からの患者さんが次々と来院されている。「いいんですよ、息子にも少々忙しい思いをさせないと」と言われるが、心はずでに患者さんのことで一杯。

どっしりと地域に根付き50年。お二人の呼吸もピッタリと。雪国の中にあつて、うらやましいほど暖かい雰囲気が漂う鈴木歯科医院である。



DENTAL SPACE

大学通り 歯科医院

青森県十和田市東12番町12-41

院長 遊佐隆子

総てオープンなイメージで、
病院らしくない医院。
それを心掛けました。

十和田観光電鉄・十和田市駅より車でおよそ5～6分。日本百選の一つにも選ばれたという巾5～60mはあるかと思われる市の官庁街道路は見事な作りで、松が植えられた歩道には古来牧馬が盛んな土地らしく、円筒の柵の上には馬頭、通路にはところどころに親子の馬が遊ぶ鉄製像が置かれてある。ちなみに、何故かわからないが、全国的に有名な十和田湖は、市から35kmと表示されている故、行かれる場合は誤りがない様に。

ご紹介の「大学通り歯科医院」はその通りから真っすぐ北東に向かって5～600m。静

かな住宅街の角地に女医さんが経営される医院らしく、ピンクの外壁を見せて建っていた。

待合室は淡いピンクの壁に、ピンクのブラインドとベージュの床。窓と壁面に沿ってグレーのベンチ型の椅子が2脚置かれている。受付は木目のオープンカウンター。

タテ型に細い素通しガラスを貼め込んだドアを押して診療室へ。

室内は、入ってすぐのところに縦長のキャビネットを配置し、それを挟んで左に1台、右に2台のユニットがカマボコ型のセパレーションに囲まれ置かれている。

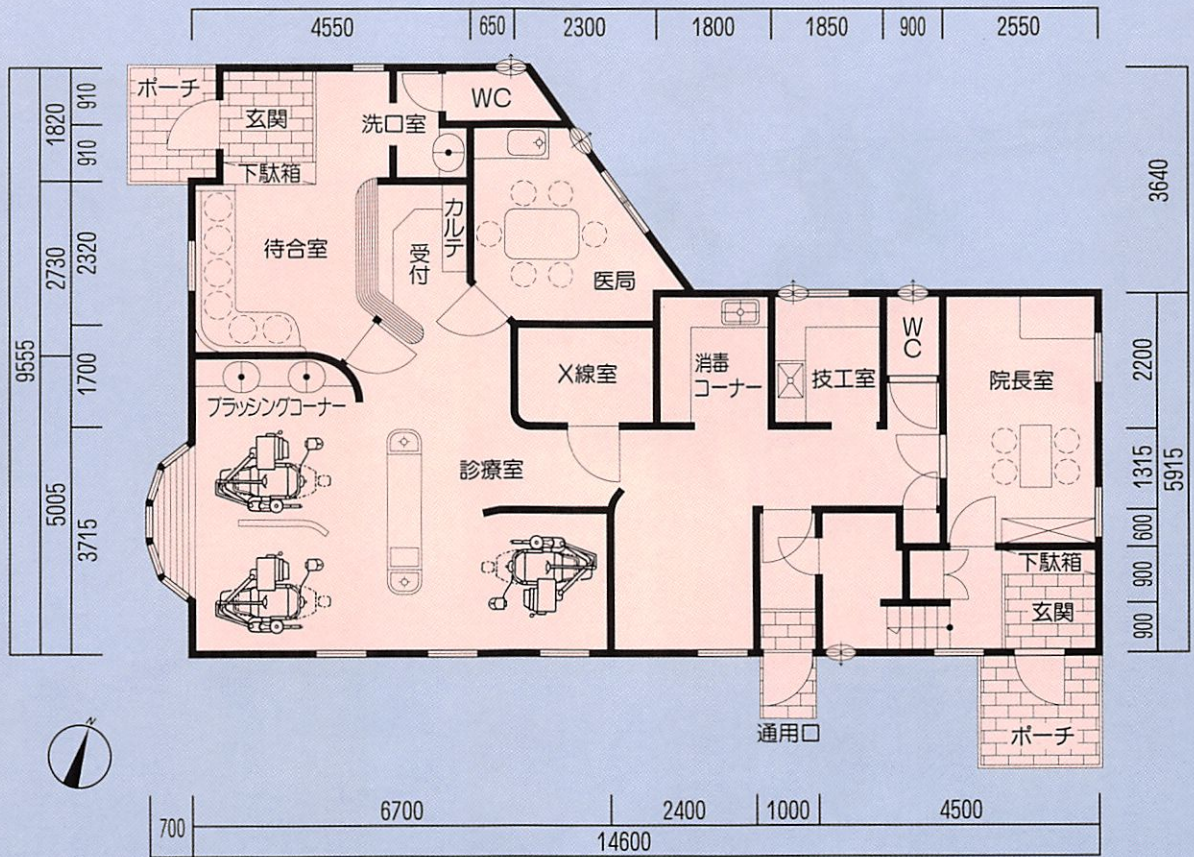
3台のスマイリー<ノーベル>のチェアは淡い色のグレー、ブルー、黄と3色にわけられ、ほぼ白一色の室内にあって、観葉植物と共に和らかな雰囲気を出している。

院長は昭和59年、北海道大学歯学部をご卒業。卒後は第2補綴学教室で内山教授のもと、研修を2年間。更に札幌市内で約3年勤務医を経験された後、市内でご開業。およそ3年半ほど開業を経験されたが、住居共々ゆったり診療を、との思いから生まれ育った此処十和田市に戻り平成5年9月、自身の夢を実現させて再開業に踏み切られた。

明るい印象のスタッフと受付・事務その他一切を管理されるご主人である遊佐敏靖事務長。

患者さんにも恵まれた順調な日々のご様子。

Q：北海道での生活が長かった様ですね。



■設計・施工：(株)エフビー ■開業：平成5年9月

■スペース：139㎡(約42坪) ■ユニット：スマイリー<ノーベル>L型3台

■診療時間：月～金 9:30～18:00、土 9:30～13:00 ■休日：日曜、祝祭日

■スタッフ構成：ドクター1名、助手5名、事務長1名 ■患者数：1日約40名



院長 遊佐隆子先生

院長：昔、修学旅行で北海道を回った時、その自然の美しさに魅せられて。勉強するのなら絶対北大だと(笑)。15年間おりましたから、私の第2の故郷ともいうべきところですね。

Q：で、今のご心境は？

院長：札幌は大都市ですから、周囲の環境も患者層も違いますが、此処は私の故郷。友人、知人も多いので、それだけにキチッとした、地に足をつけた診療を日々していかなければなりません。1日40名前後の患者さんが来院されますから、ちょっと大変だな、と思う時もありますが、とにかく夢中で…。頑張っていきたいと思っています。

Q：日々の診療で思われていることは？

院長：私は、診療については総て自分で行わなければ気がすまない性格で(笑)。そのため患者さんをお待たせしたり、流

れがスムーズに行かないこともあります。が、診療の方向、説明は納得されるまでよくお話しします。時に、もう少しゆとりを持ちたいな、と思うこともあります。治療の前の基本的なことなので、決して手抜きすることなくこの方針を貫いていきたいと思っています。上が住まいですので、平日はパジャマと白衣だけの生活です(笑)。

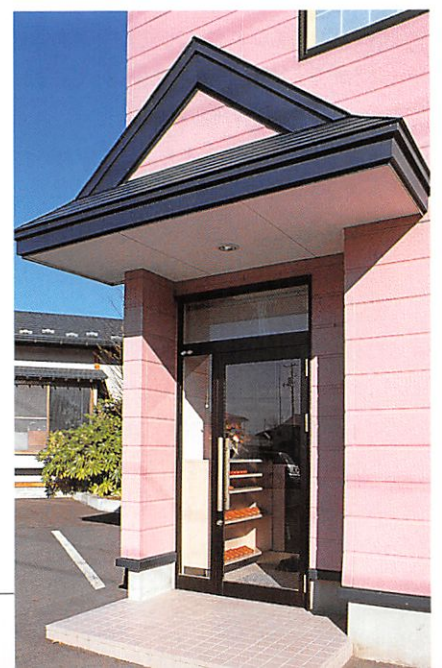
Q：でもご主人が受付から事務一切をやられて、助かりますね。

院長：ええ、私はそうした関係は一切だめなんです(笑)。開業するにあたっては手続きその他色々なことがありましたし、日々の生活や診療においても、治療以外の雑務が多くありますでしょ。助かっています。

Q：ご自身、スタッフの方々の勉強等は？

院長：私は少ない時間をぬって、泊まりがけ

はあまりありませんが、講習・研修会には出来るだけ出席するようにしております。スタッフは、当地にはそうした専門学校がありませんから、全員が素人。私が基本的な指導から、総て初めから教えてお





ります。でも皆さん一生懸命、良くやってくれまして…。将来が楽しみです。

Q：大学通り歯科医院。ちょっと変わった医院名ですね。

院長：ええ、色々悩んだんです。好きだった札幌にちなんで、エルム歯科、ポプラ歯科など。でもこの先に北里大学があるところから、通り名をそのまま取ってしまおうと(笑)。決定しました。

Q：医院を建てられるにあたってご留意された点は？

院長：外壁はニセコにあったペンション風にと。ここは住居でもあるんですが、一方医院ですからお店でもあるんですよ。自分でこの色と決めましたが、出来上がって見て最初はビックリしましたが、もうすっかり慣れました(笑)。診療室内はセンターにキャビネットを置き、その両側にユニットを配置して、なるべく動きを少な

くするようにしました。自宅が上ですし、知人も多いので休みの時でも急患であれば診なければなりません。その時は1人ですから、この配置は良かったと思っています。待合室も総てオープンなイ

メージで、病院らしくない医院。それを心掛けました。

Q：今まで女医というハンディを感じられたことは？

院長：家の主婦という仕事はできる範囲でしかませんし(笑)、あまり感じたことはありませんね。逆に女性で良かったと思うことの方が多かったかしら(笑)。でもこれは女性に限らずですが、地方での開業医はオールマイティーでないとイケせんね。札幌時代、矯正や口腔外科等、もう少し他の分野の勉強をしておけば良かったと…。その点が少々欲求不満です(笑)。

Q：オサダというメーカーとスマイリー<ノーベル>を選んで頂いた理由は？

院長：大学時代も勤務医時代も、又勉強会で行った場所も総てオサダさんだったし、相談した先生、友人も、若干高いかも知



れないが、ユニットを買うならオサダがいいよ、と。ですからメーカーは初めからオサダと決めていました。〈ノーベル〉を選んだのは、見た目もスッキリしているし、足回りも良いし…。昔使っていた古いユニットでも使いやすいと感じていましたから、それより便利になっているのだからと、すぐ決まりました。

Q：最後に、お友達に何かメッセージを。

院長：同級生も、北海道はむろんですが、全国各地に行かれ、ほとんど会う機会もなくなりました。皆さんもだんだん年をとって行かれますが、とにかくお身体だけは気をつけて、これからも頑張ってくださいね。

<大学通り歯科医院の設計にあたって>

大学通り歯科医院は、名前の通り十和田市内の中心部に北里大学（獣医畜産学部）又、近くには、小中学校があり学生及び児童

達の目にとまるような外観、外装をするように心がけました。

院長先生が女性ということもありまして、外装に淡いピンク系の色を用い、内装には、清潔さを保つように床材の長尺シート、壁、天井等のクロス材、ドアなどはホワイト色を使用することにしました。又アクセントとして、受付カウンター、センターキャビネットは外装と同色のピンク色の素材を使用。内部も一般の設計と比べ天井の高さ20cm、ドアの高さも2m10cmと高くし、空間スペースがより広く感じられるように考慮してみました。

十和田市は雪国ということもあり、寒さ対策として床、壁、天井等の断熱性には、十分留意して設計させて頂きました。

今後、大学通り歯科医院様が、各世代の方々からも親しまれ、繁栄されるように心よりお祈り申し上げます。

(株)エフピー



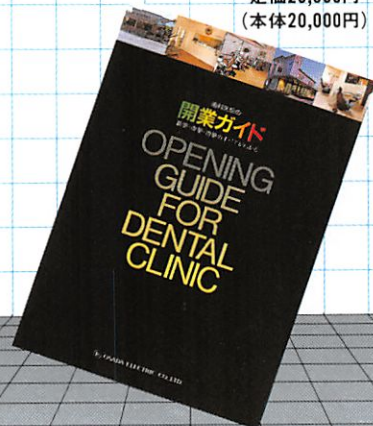
改訂版 開業ガイド

歯科医院の新築・増改築などに
豊富なカラーphotoを
多数掲載!!

<主な項目>

- 歯科医院のセクション別実例
(カラーphoto118点掲載)
- 歯科医院のレイアウトチェック
リストと基本事項
- これから開業される先生方へ
——オサダからのアドバイス
- 開業と税金の知識 他

定価20,600円
(本体20,000円)



※御希望の方は下記迄、御連絡下さい。
長田電機工業(株)／お客様センター
〒141 東京都品川区西五反田5-17-5
TEL 03(3492)7651(代)



能(謡曲～舞囃子)を習って25年 “継続は力なり”をモットーに 2つの道を歩み続ける永田先生

「能」。この伝統芸能が今日のような形式に整えられたのは14世紀の半ばから後半にかけて、時の将軍足利義満によって認められた頃といわれる。中でも観世座で演ぜられる観阿弥の能は、京都の人々の評判を呼び、それがその後幾多の変遷、様式に改革があったものの、今日の能の基盤になっている、と言われる。

その謡曲を習われて25年。昨年福岡の大豪公園能楽堂で、地元有志が演ずる会で、舞囃子(まいばやし)を舞った歯科医師がおられると聞きお訪ねした。

診療所は小倉駅から車でおよそ15分。三方を小高い山に囲まれ、側面には小川が流れるという、恵まれた静かな住宅街に建っている。お会いした先生。さすがに姿勢が基本といわれる舞囃子を演じるだけあって、真っすぐに伸びた背筋に挨拶の仕方もピシッと決まり気持ちいい。

通された応接間で、ビデオを見ながらご解説して下さるが、当方の知識と言えば、能にはシテとワキがいて、古語調の謡と囃子で物



永田歯科医院

北九州市八幡東区中畑2-4-3

院長 永田博見



語を舞うことぐらいしかない。はっきり言って、格式の高い遠い世界の伝統芸能と思っていたので、読者の先生方の中には、少し突っ込みが足りないにご不満の方もおられるかも知れませんが、お許し下さい。

——先生と能との出会いは? 「母が永い間謡いや仕舞いをやっておりましたが、当時私は学生時代で、しよっちゅう謡の先生が来たり、本人も暇があれば練習しているんです。うるさいなー、と勉強しながら当時はずっと思っていたんです(笑)。それが開業後、この八幡の歯科医師会に「緑葉会」という謡曲の同好会があることを知り、入ったのが始まりです」。ビデオでは囃子方に合わせ、小鼓、大鼓、太鼓、笛が鳴る中を先生が1人、姿勢正しく舞っておられる。ラァラァヒウウロァ、字で書くと何だか呪文のようになるが、これは音符にふられたカタカナの笛の旋律の一節。「笛の音を完全に覚えてしまわないと舞えないんですよ。これは「唐船」と言う曲目の“楽”の舞いですが、およそ20分間舞います」と言ってお見せ下さるが、能面のように無表情な



人、という言葉があるように、舞台上の先生は、面(おもて)がなくとも全くの無表情。どこが嬉しくて、どこが悲しいのかもわからない。持ち物は扇子一本、それを広げたり、たたんだり…。思わず「能は面をつけ、頭や衣装も豪華に飾り舞うものではないんですか」と尋ねてしまった。「ええ、通常はそうですが、それは私の場合はずっと先。これは一曲の中のエキス、主なところだけを取り、直面(ひためん)のままお囃子に合わせ舞う“舞囃子”と呼ばれるものです」と言われてしまった。解説本等は?「前もって配る時もありますが、能を見に来られる方は、およそ定まっておりますから、内容はほとんどご存知で…。素人が近づき難い、その点が私も少々残念な気がしますがね」と正直なお話。

—25年やって来られたのは?「何しろ600年の伝統芸能、一挙手一投足にも色々仕来りがあり、始めて5~6年の頃は正直ツラかったですね。一つの壁を乗り越えようと、すぐ又次の壁にあたってしまう感じで…。でもこの舞囃子を勉強するようになったら、面白味もグッと増し、何時かは面をつけて、と思っているんですよ。初めた頃は演能の券を買っても、行ったり行かなかつたりでしたが、最近はず見に行っております」。—練習は?「診療後この室で。公演が決まりますと毎夜、一年間続けます。素謡いで全て口伝ですから、耳で聞き、自分で声を出し、雰囲気を作りながらの練習です。能舞台はこの八幡にも

ありますから、時々その舞台でも練習を重ねますが」。—25年、免状のようなものがあるとお弟子さんを取るようなことは?「ええ、私は梅若流に属し、東京から梅若晋矢先生が来られて教を乞うておりますが、免状は、初伝、中伝、奥伝とあり、それぞれ先生の前で謡い、流儀や仕来りにならっていると認められれば免状を頂くことが出来ます。が、私はまだチャンスがなく、教授の免状は持っておりません。25年など、この世界では新しい方なんですよ」。そう思って写真を見ると、皆さん先生より年上の方ばかりのようだ。「同好会でも若い方をお誘いするんですが、皆さん難しいらしく、敬遠されてしまうんです(笑)。考えてみれば、確かにゴルフやカラオケのように、爽快感は全くありませんから、入らないのもうなづけますね(笑)」。「でも正月など、紋付、袴を付け謡いますと、気分も新た、気持ちがひきましますし、清められた思いになりま



す」。—奥様は?「ええ、自分では決してやろうとはしませんが(笑)、長年共に見ていたからか、評価は適確ですね。「サシ、ヒラキの場合のお形がきれいになりましたね」とか「素謡いのトーンが良くなりましたよ」とか、言ってくれます。永久に練習を積み重ねる世界で、まだ私はその初歩的段階。一生続けて行くつもりです」と能についての魅力を熱心にお話し下さる。

昭和38年、日本大学歯学部をご卒業。ご開業は昭和41年。お二人のお子様の内、ご長男は医師、ご次男は先生の跡を継ぐべく、現在福岡歯科大学に在学しておられるという。「子供が育ち終るまで、まだまだ働かなければなりません、何事も”継続は力なり”をモットーに、能と歯科医師、この2つの道を今後も続けて行くつもりです」。

誠実で真面目。笑顔のやさしい折目正しい院長である。

ア シ ス タ ン ト 紹 介

藤田歯科医院

東京都港区南青山5-8-9

青山モータース3階

院長 藤田直久

地下鉄・表参道を渋谷方面に向って降り、青山5丁目の交差点を左折、徒歩2~3分の表通りに面したビルの3階に平成4年にご開業された「藤田歯科医院」。東京のど真ん中、若者の憧れ、ファッションの発祥地とあって、辺りはヨーロッパ直輸入のブランド名をそのまま店名としたしゃれた店々が並ぶ。

院内はテナントビル内ゆえ、各部をゆったりとはいかないが、スマイリー<ファイン>4台が並ぶ診療室は、眼下に道行く人や付近の景色が見渡せ気持ちいい。

院長は日本歯科大学を卒業後、地元青山で8年程勤務医をされた後独立。後ほどお話しにも出て来るが、患者さんへの口腔指導やコミュニケーションを何より大切にされるとあって、この激戦の場所にあって患者数も驚くほど多い。従って陣容も、ドクター3名、衛生士6名と、設備、スペースの割合からすればこれ又多すぎる程、万全である。

最初にご紹介するのは、開業以来当院にお勤めの竹田さん。東京都歯科医師会附属歯科衛生士専門学校を卒業され、1年間他院に勤務された後当院へ。今年5年目を迎える、そろそろベテランの域に入られる衛生士さん。——動機は?「高2の時、歯医者に通っていて興味が湧き、その後この職業についての本を読んだり、友人に聞いたりして、“私にピッタリ”と思い入学しました」。今の仕事の内容は「ブラッシング指導やスケーリング、ドクターの補助や受付まで。衛生士としての仕事を含め、当院では全員がそうですが、院内の色々な仕事をやっております。朝早く、夜も遅いんですが、思った通り自分に向いている職業でちっ

竹田真美子さん
松沢 美樹さん
杉山智恵子さん
松尾 亜紀さん
石田佐代子さん
原 智春さん



とも苦になりません(笑)。少々疲れているかな、と感じる時もありますが…。イヤだったら出来ないですよ(笑)」と自身にも言い聞かせるように。都会の医院らしい菌切れの良さ
が印象的だ。——この医院の魅力は「診療内容や患者さんのことなども、全員が友達感覚でそれぞれの立場で意見を交換出来ます。それがいいですね。時々友達に聞くと、ドクター1人が一方的に話して…。そんなんじゃないかとも知れませんが、威張っているように聞こえて話し合いが出来ないみたいな雰囲気らしいんです。その点ここはいいですよ(笑)」。

松沢さんは当院で3年2ヶ月。東京医科歯科大学附属衛生士学校を卒業され、通算6年目を迎えたベテランだ。「卒業後故郷(栃木県)に帰り働いていましたが、学生時代にアルバイトで藤田先生を知っていたことから、又東京に戻って来ました」。「ちょっとのんびりしていますので、初めはこの職業に向いていないんじゃないかと思っていましたが、最近はやりがいいが出て…。年と共に気が強くなっちゃって、近頃は先生ともケンカしちゃうし、お嫁の貰い手がなくなって困ったな、と悩んでいます(笑)」。と言ってもまだ20代の半ば。当院の明るい雰囲気がわかるようだ。——衛生士としての職業観は?「この職業はまだ看護婦さんのように一般的に知られていないようで“歯医者のお姉さん”的に呼ばれております。もう少し地位というか、世間の人達に認めてもらえるようになったら良いな、と思います」。歴史が浅いせいも、確かにP.Rが行き届いていない面もある。衛生士が足りないといわれる現状にあって、歯科医師会、衛生士会とも…。参



考になるお話しである。——ツライことは？「患者さんにこちらの意向が伝わらず、「こんなことをやられた」と言われた時ですね」と正直に。やはりベテランである。

杉山さんは竹田さんと同じ学校の後輩。この道に入った動機も、以前歯科医院に通ったことから、と言われる。——やりがいを感じる時は「ここでは毎月リコールで患者さんに連絡をとりますが、再来された患者さんの歯が、指導した通りにキチッと磨け、きれいになっている時ですね。衛生士になって良かったなーと思います」。職業観については「資格を持ったことで、最近、回りは職業難と言われておりますが、そうした心配は全くありません。又、当院は恵まれた環境下にあるかも知れませんが、与えられた仕事をただこなすだけでなく、自分から進んで仕事が出来ます。キャリアとして自立した仕事が出来るとこの職業。やりがいのある良い職業だと思います」。昨今、近頃の若者は言えばやるが、自分から率先してやろうとはしない、という話をよく耳にするが…。指導・上司側にも考えさせられる話である。

松尾さんは鶴見短期大学部歯科衛生科を卒業し、他院に1年勤務した後当院へ。この職業を「多くの人と話しが出来ますから、色々勉強になります。でもいつも自分の感情を表に出さず、やさしく接していなければなりませんから、一面大変な職業ですね」。でも人間ですから時には？「そうなの。それがストレスになっているかも…」と明るく笑う。口

で言うほど大変じゃあない(?)。当院に入られての感想は「年齢層が皆んな同じ位ですから話しも合うし、毎日が面白く、良い医院に入ったな、と思っています」とソツのない返事であるが、それが全く不自然に感じられない位、取材中にも賑やかな笑い声が聞こえて来る。黒一点の院長がうらやましい(!)。

石田さんも竹田さん、杉山さんと同じ学校卒の同窓生。「アルバイトや実習などでこの職業の実際の内容は知っていましたが、いざフルタイムで働きますと、忙しいし、気は使うので、大変な仕事だな、と感じています」。就職後やっと8ヶ月余り。正直な感想であろう。——ご自身の勉強は？「講習会など自分で希望すれば行かせてもらえるようですが、まだ院内で覚えることはばかりで…。今のところは先輩に教わって、夢中の毎日です」。普段気をつけていることは「とにかく患者さんに恐怖心

を与えないこと。ビクビクしないで自信を持ってやりなさいと言われますが…。難しいですね。やさしく、明るい笑顔。頼れる衛生士として、将来大きく育っていくことであろう。

原さんは新東京歯科衛生士学校を卒業され、石田さんと同じく昨年入局されたばかりのホヤホヤ衛生士さん。ご自身の仕事を「私達はドクターと患者さんの中間に立って流れをスムーズにさせるのが任務。まだ毎日が緊張の連続で、慣れるまでには時間がかかりそうです」。動機は「自分が歯医者に通っていて、セメントを練ったり、患者さんと話したりと、たのしそうな職業だったから…」と現代っ子らしいご返事。勉強については「先輩や業者の方と仲良くして色々教えてもらうこと。専門雑誌などになるべく目を通し、知識を吸収すること。それでないと今のレベル(知識等)でストップしてしまうと思うんです」となかなか意欲的。気をつけていることは「私は新人ですが、患者さんには専門家の1人。どんなに忙しくても、手を抜くことなく、丁寧に時間をかけてお話しすることを心掛けています」。この前院長から怒られちゃった。でも、これ書かないで(笑)と言われたが、医院の姿勢がわかる大切な言葉ゆえあえて書く。朗らかで意欲的で…。この方も将来がたのしみな衛生士である。

<院長から一言>



私達はトータルに院内全体を見渡すことは出来ませんが、歯周病などの専門的知識は衛生士の方がむしろ上。その知識をフルに活かし、患者さんに役立てて欲しいと思っています。開業以来、単に機械的に疾患部を治療するのではなく、患者さんとのコミュニケーションをはかり、利潤をむやみに追求しなかったことが、今の結果につながったと思っています。今後も私を含めスタッフ一同、資格に甘えず、プロとして患者さんに奉仕する気持ちを忘れずにやって行きたいと願っています。結婚し、家庭に入っても、当院での経験が役立つ人間に。それが私の希望でもあり、夢ですね。

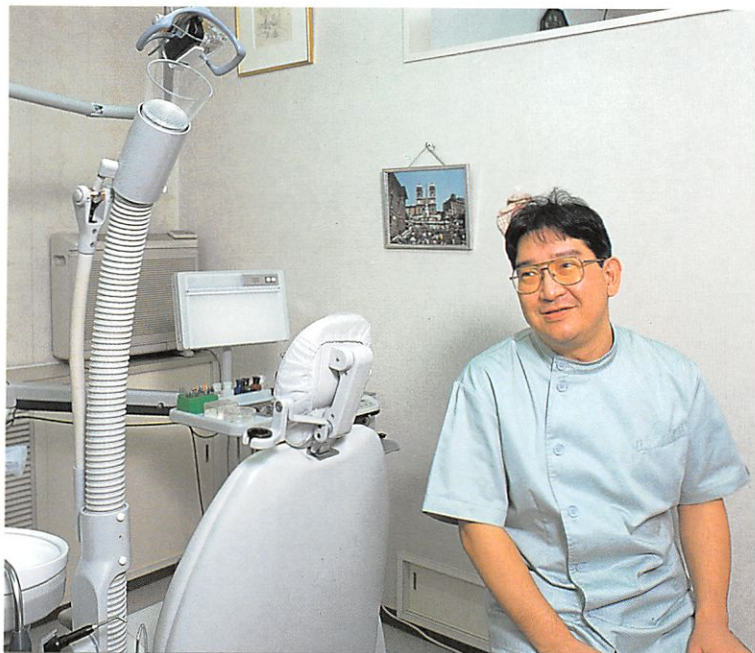
以前は毎回メガネを拭いていたんですが、今はほとんどありません。口腔外バキューム「フレクシークリーンエアースystem」は院内の清潔はむろん、身体にも良い診療環境を作り出すのではないのでしょうか。

診療室訪問シリーズ

横井歯科

名古屋市西区鳥見町 3-22
パークシティ鳥見

院長 横井弘孝
(愛知学院大学歯学部卒・37才)



地

下鉄・鶴舞線 庄内通り駅から徒歩5〜6分。およそ600世帯ほど入居されているという分譲マンションの中庭に面して、今年ご開業以来10年目を迎えられた横井歯科。内部はビル内ゆえ、各部をゆったりとまではいかないが、

全体を濃淡グレーと白でまとめ、清潔で明るい雰囲気仕上げています。

院長は卒業後、勤務医の傍ら名古屋第一赤病院で約4年間口腔外科を研修。昭和61年2月、実家にほど近い当地にてご開業。一般歯科と共に小児歯科にも力を入れて診療されていると言われるように、やさしく柔らかな印象。スタッフも充実されているが患者数も多い。「開業後すぐ患者数も順調に推移して来ましたが、この10年間治療人数はほとんど変わっておりません。5年ほど前から地元の学校医になりましたので、どうしても子供の口腔衛生指導には力が入ります。私の意図を汲んで、衛生士がけっこう厳しく指導してくれますので、その点は助かっております。この方針を今後も貫いて、地元の方々に奉仕出来れば、と思っております。」

3台のユニットにはそれぞれエナックと口腔外バキューム「フレクシークリーンエアースystem」が、「院内には仕事上、細かい切削粉が一面飛び散ります。切削時にバキュームをその方向に向けますと、丁度天の川のように白い流れが目で見えるんです。以前は毎回メガネを拭いていたんですが、今はほとんどありません。清潔を保つことはむろんですが、術者、患者、衛生士等の身体にも良い環境を作り出すのではないのでしょうか。ユニットより早く口腔外バキュームの取り付けを決めました。期待を裏切らない機器だと思えます。」



内蔵式口腔外バキューム

オサダ
フレクシー
クリーンエア
システム

F.C.A.S.

¥386,000(工場オプション) ※消費税別途
※ブロー、エアシャッターは別途

※資料ご希望の方は、商品名、掲載誌名を明記の上、本社お客様センター係宛にハガキでご請求下さい。

コンピュータ搭載で、スタイルも斬新。
これからの時代に合った
最新のユニットである
「フラインGMD」。
良く考えられていると
感心しております。



大阪→京都間を走る京阪電鉄・大和田駅より車でおよそ10分。団地に隣接した角地に建つ「杉岡歯科診療所」。スタッフ総勢14名と大所帯だが、患者数も激戦地の中にあつて驚くほど多い。理事長は卒業後2年間勤務医を。その後寝屋川市萱島にて開業。7年間を経た後

診療室訪問シリーズ

医療法人 齊歯会 杉岡歯科診療所

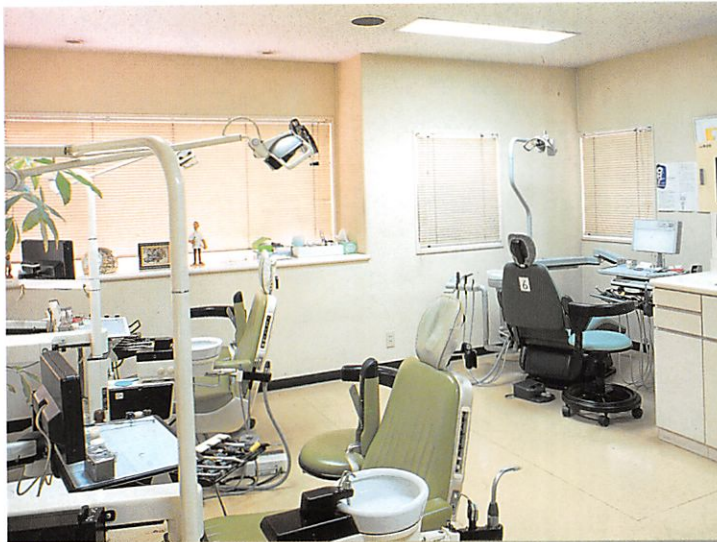
大阪府門真市千石東町2-26

理事長 **杉岡守三**
(大阪歯科大学卒・66才)



院長 **杉岡 悟**
(岐阜歯科大学卒・現朝日大学歯学部・35才)

副院長 **中嶋嘉彦**
(大阪歯科大学卒・38才)



昭和42年、現在地に移転、新たなスタートを切られた。「私が開業した頃は日本も当界も高度成長期にあり、毎日勉強と治療に夢中の時代でした。今は医師過剰、患者さんからの要望も多種多様とあつて、若い先生方は大変苦労をされているようです。でも、見方によっては、自身の努力・勉強が報われる、やりがいのある時代でもあると思うのです」。ご息に望まれることは「医院の発展から歯科医療界全体の発展まで、眼を世界に向け、地に足のついたスケールの大きい医師に育って欲しい」と願っています。難しいですが、これからの当業界を生き抜くためには、そうした志が大切なのではないでしょうか。

多忙な理事長に変わって当院の大黒柱に育ちつつある院長。卒業後は勤務医の傍ら大阪歯科大学解剖学教室に通い、一昨年学位を取得された努力家。「今は歯だけを治療する時代から口腔全体を診ながら患者さんの健康を守る時代になりました。当院の体制も次第に整いつつありますが、ここまて来る過程では母校を初め、大歯大の先生方や諸先輩のアドバイス・ご指導があったからこそ、と感謝しております。この経験を今後は患者さんに還元、努力し続けて行き度いと思っております。」

◇ 室内にはスマイリーGMと並んでフラインGMDVが。当院で共に診療して下さる副院長の中嶋先生が、コンピュータ搭載でスタイルも斬新。これからの時代に合った最高のユニットだと推薦があり設置しましたが、真にその通りで、良く考えられたユニットだと感心しております。

OSADA
**Fine
GMD
S233LL**



製造承認番号03日第0326号

※資料ご希望の方は、商品名、掲載誌名を明記の上、本社お客様センター係宛にハガキでご請求下さい。